

計画段階評価について
山陰道（須^す子^こ～田^た万^ま川^{がわ}）
第4回 説明資料

令和元年 12月5日

国土交通省 中国地方整備局

目次

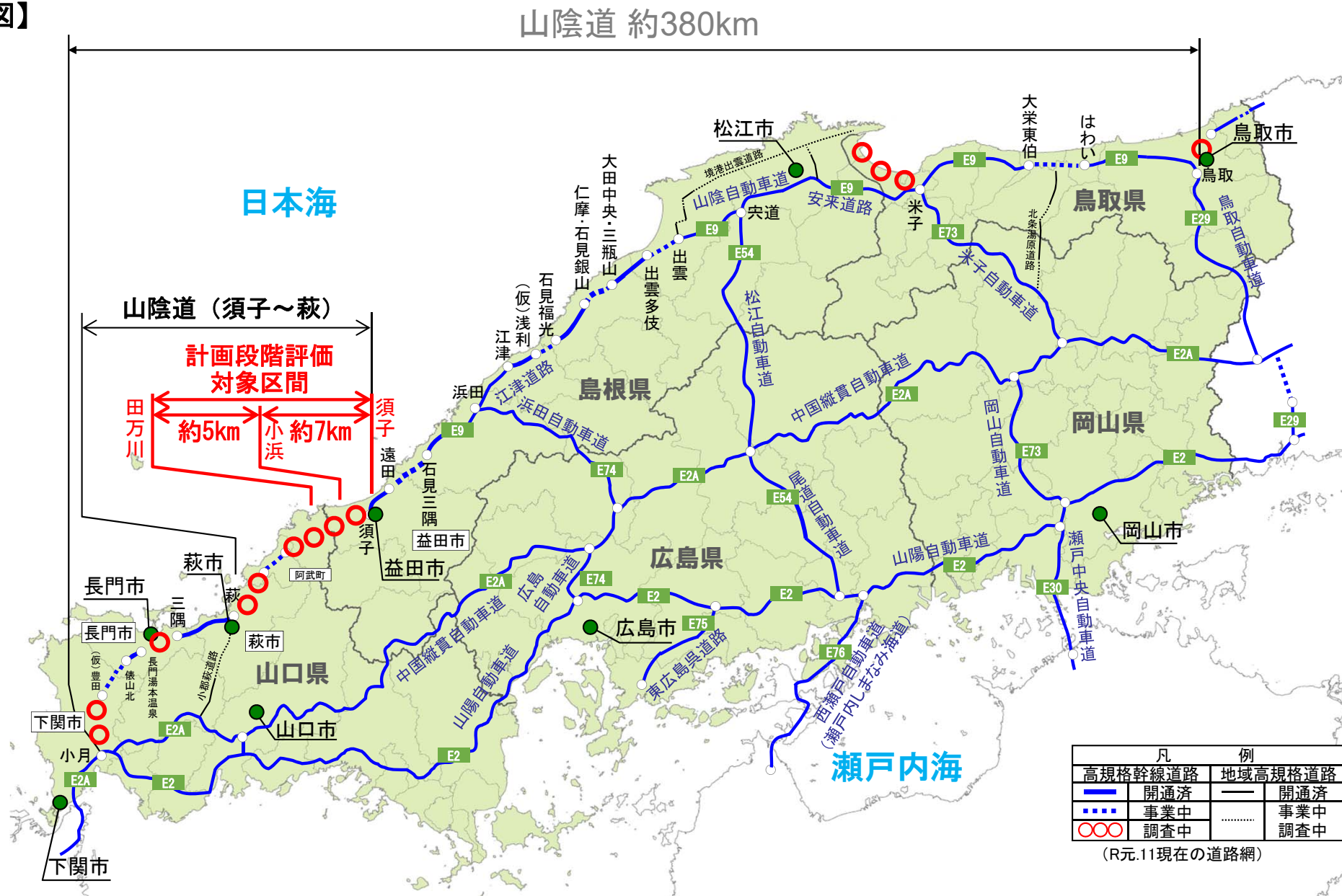
1. 計画段階評価の検討の流れ	・ ・ ・	2
2. 「須子～小浜間」の検討	・ ・ ・	10
3. 「小浜～田万川間」の検討	・ ・ ・	36

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-1. 中国地方の高規格幹線道路網

- 須子～小浜間、小浜～田万川間は、日本海国土軸の一部を担う山陰道(須子～萩)の一部。
- 島根県益田市～山口県萩市の県境部に位置し、北側の日本海と南側の山地に挟まれた自然豊かな地域である。

【広域図】

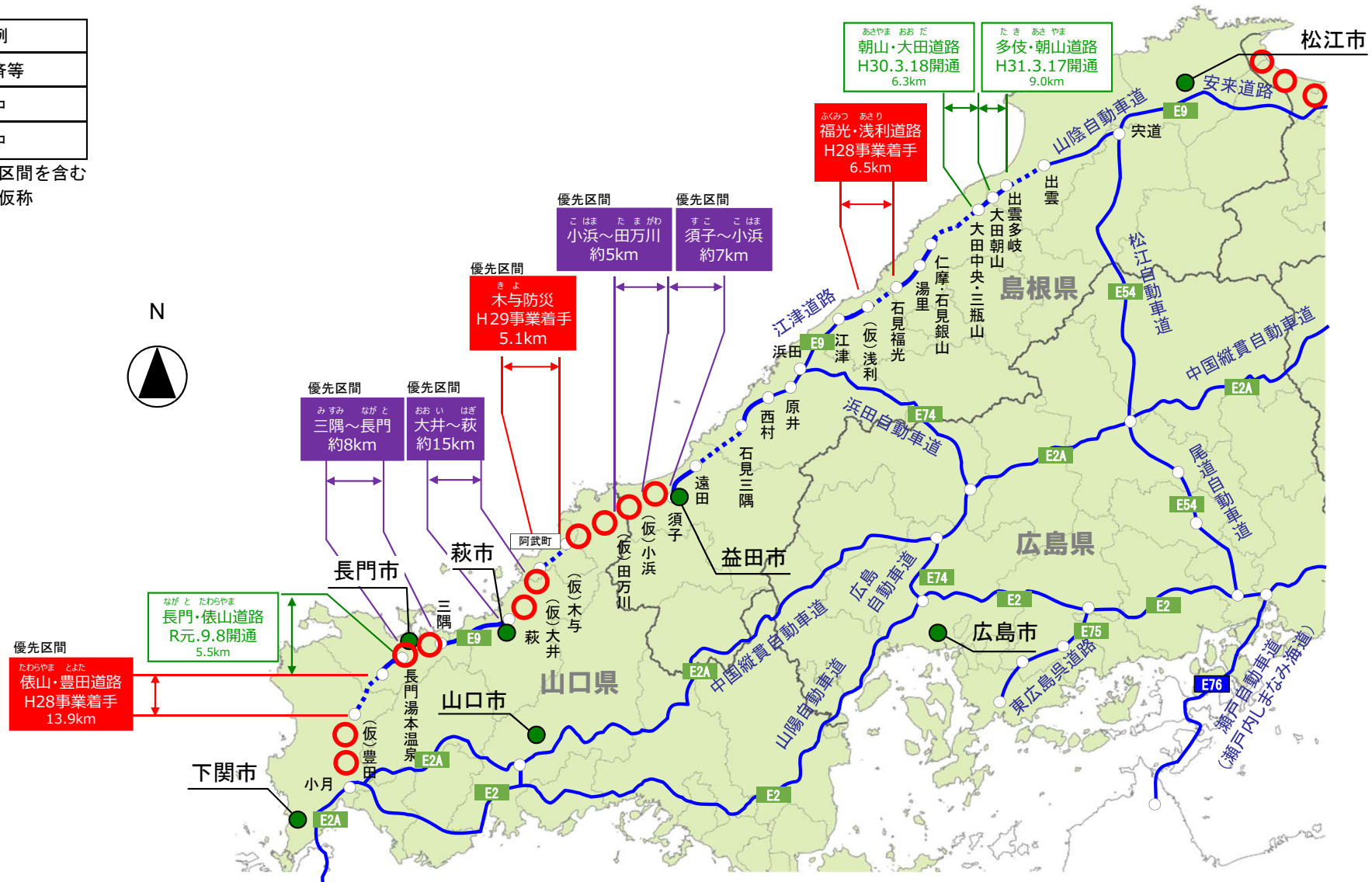


1-2. 山陰道（島根県、山口県区間）の進捗

- 島根県の朝山・大田道路がH29年度、多伎・朝山道路がH30年度に開通。山口県の長門・俵山道路がR元年度に開通。
- 須子～田万川間は、H30年11月に第3回地方小委員会を開催し、須子～小浜間の対策案に関する意見聴取を実施。
- 大井～萩間はH30年11月に第3回地方委員会を開催し、H31年1月に対応方針が決定。
- 三隅～長門間は、H30年2月に第1回地方小委員会を開催し、地域、道路の課題に関する意見聴取を実施。

凡 例	
	開通済等
	事業中
	調査中

※一部当面現道活用区間を含む
※事業中のIC名は仮称



1－3． 前回審議内容

■平成30年度第3回社会資本整備審議会道路分科会中国地方小委員会の概要

実施日：平成30年11月29日（木） 開催

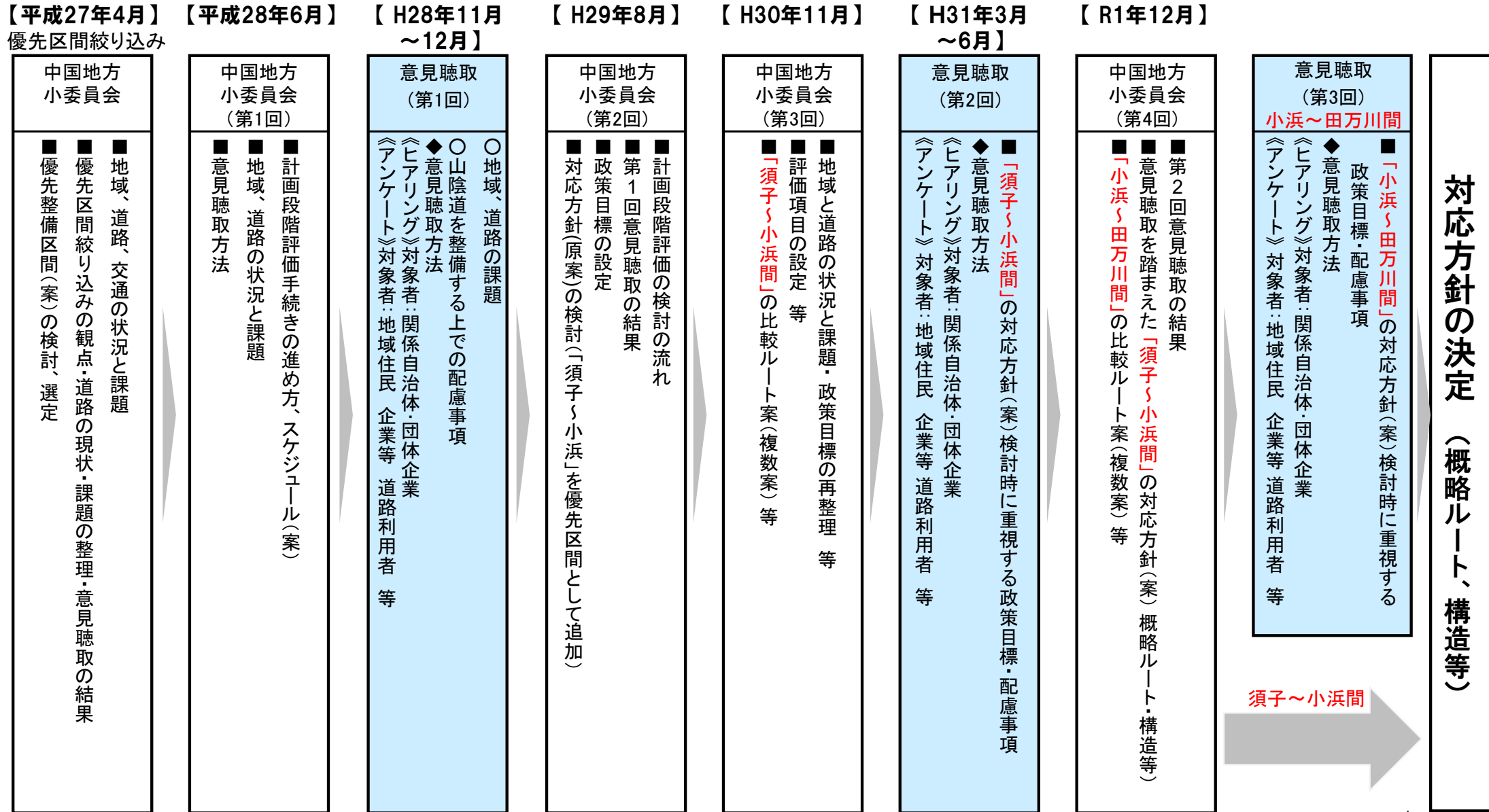
主な議事：①地域・道路の状況と課題の再整理 ②政策目標の再整理
③対応方針（複数案）の設定 ④意見聴取の方法

■前回審議にあたって主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
・現道対策も必要だが、頑健なネットワークとして、山陰道の構築も必要。小浜～田万川間について、バイパス案を加えた評価を今後検討し、意見聴取すべき。	・小浜～田万川間については、別線バイパス案を含め検討を実施し、今回、3案を提示。
・産業振興について、「石見臨空ファクトリーパーク」と「国営農地」の2拠点のみへのアクセス性だけで評価しているように読める。もっと広い視野で産業活性化に係る意見を喚起できるように、意見聴取の内容を検討すること。	・アンケート項目においては、「石見臨空ファクトリーパーク」と「国営農地」について、 <u>主要な産業拠点</u> として例示。 ・ヒアリングにおいては、上記拠点に限定せず、幅広く聞き取り。 ※P15にて詳細説明
・意見聴取にあたっては、「現道対策」の内容について適切な情報提供を行うこと。	・小浜～田万川間の意見聴取に向けて、現道対策案の具体的な対策内容を提示。

1-4. 計画段階評価の検討の流れ

■計画段階評価手続きの進め方、スケジュール(案)



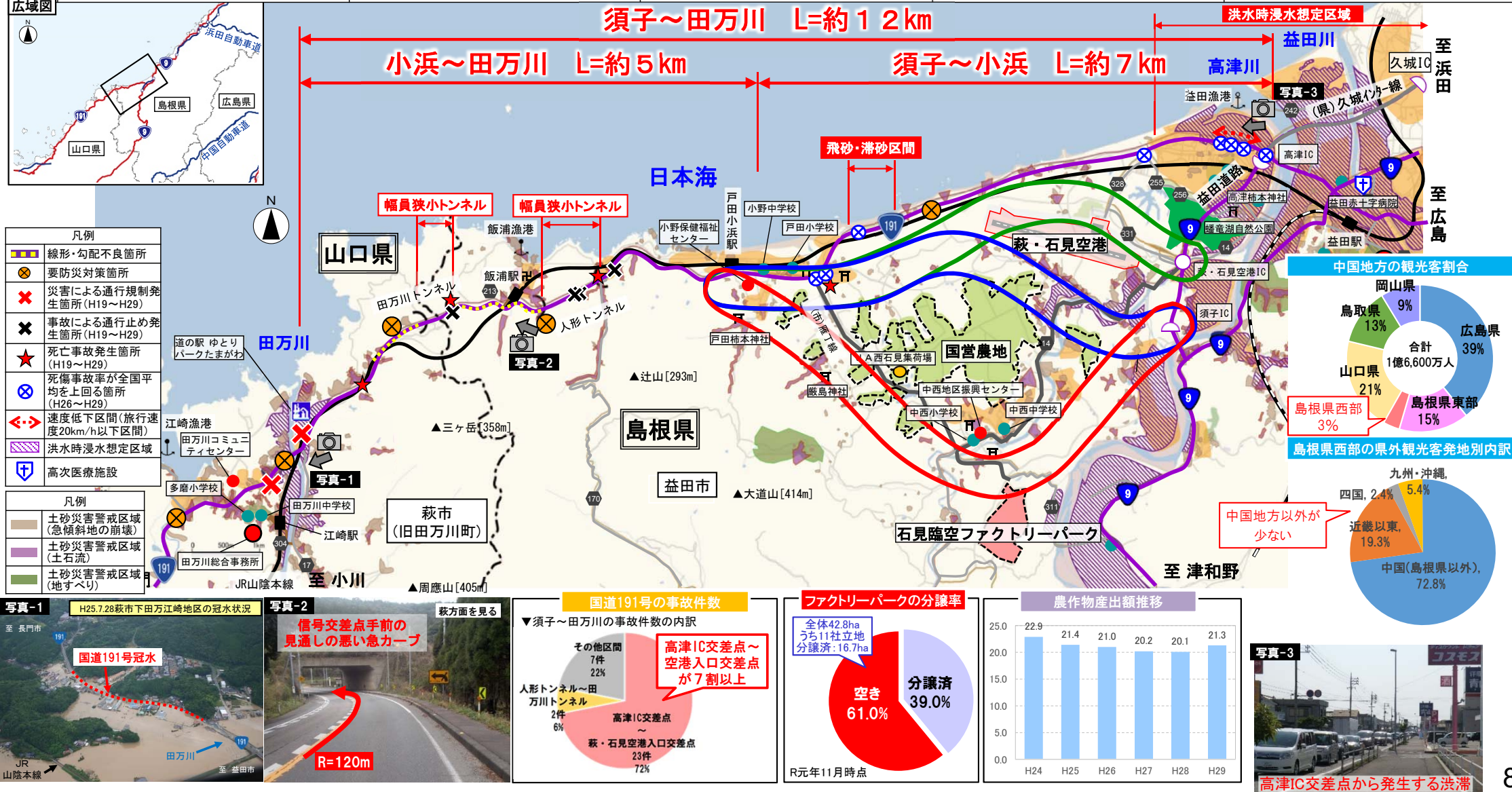
1-5. 地域の将来像、地域の活動状況との整合性

項目	地域の将来像
通行止め時のネットワークの確保	○災害に強い県土づくり <島根総合発展計画> (H28.3) ○災害に強い県づくり <やまぐち維新プラン> (H30.10) ○自助・共助・公助の消防・防災体制を強化 <益田市総合振興計画> (H28.3) ○防災拠点のネットワーク <萩市都市計画マスタープラン> (H23.3)
安全性・走行性の向上	○安全対策の推進 <島根総合発展計画> (H28.3) ○暮らしの安心・安全確保 <やまぐち維新プラン> (H30.6) ○地域の安全対策を強化 <益田市総合振興計画> (H28.3) ○市民の安全な交通環境整備 <萩市都市計画マスタープラン> (H23.3)
産業の活性化	○自然が育む資源を活かした産業の振興、産業基盤の維持・整備 <島根総合発展計画> (H28.3) ○産業の国際競争力強化に向けた産業基盤の整備促進 <山口県 まち・ひと・仕事創生総合戦略> (H30.10) ○市内の産業構造や基盤を強化 <益田市総合振興計画> (H28.3)
観光振興の促進	○観光の振興 <島根総合発展計画> (H28.3) ○幅広い産業・地域を活性化させる観光の振興 <山口県 まち・ひと・仕事創生総合戦略> (H30.10) ○観光・交流を促進 <益田市総合振興計画> (H28.3) ○観光資源・情報のネットワークづくり <萩市都市計画マスタープラン> (H23.3)
救急医療機関への速達性・確実性の確保	○医療の確保 <島根総合発展計画> (H28.3) ○救急医療体制の充実 <山口県 まち・ひと・仕事創生総合戦略> (H29.3) ○救急・医療体制の充実 <益田市総合振興計画> (H28.3) ○保健・医療・福祉の充実 <萩市都市計画マスタープラン> (H23.3)

1-6. 地域課題（再整理）

目標策	通行止め時に機能するネットワークの確保	安全性・走行性の向上	産業の活性化	観光振興の促進	救急医療機関への速達性、確実性の確保
地域課題・道路	- 要防災対策箇所、飛砂区間、土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域が点在。 - 昭和58年災害、平成25年災害では、崩落や浸水による長時間の通行止めが発生。 - 通行止め発生時には、大幅な迂回を強いられ市民生活及び企業活動に支障。	- 高津IC交差点～萩・石見入口交差点間で、死傷事故が集中。 - 小浜～田万川間で、道路構造の不良箇所、幅員狭小トンネルが点在。 - 小浜～田万川間で、道路構造不良区間及びトンネル内で死亡事故が発生。	- 益田市の特産農作物の販路拡大が進んでいない。 - 石見臨空ファクトリーパークの分譲率は39%と企業立地が進んでいない。 - アクセス道路の確実性、走行性、速達性の低さが、企業立地や事業拡大及び販路拡大の支障。	- 島根県西部地域の観光入込客数は少なく、観光ツアーも空白地となっている。 - 萩市を訪れる九州や関東等の観光客が、島根県西部地域まで周遊を行わない。 - 観光地間の移動時間の長さや、空港へのアクセスのしにくさが、観光ツアー設定や、個人旅行者の周遊観光の支障。	- 萩市の須佐地区、田万川地区及び阿武町には救急搬送に30分以上を要する高次救急医療の空白地あり。 - 通行規制時の迂回や急カーブ等による患者への負担増加。 - 高津IC入口交差点付近の渋滞により救急医療機関への到着時間遅延リスクが発生。

広域図



1-7. 政策目標

■ 政策目標の設定

■ 地域の課題や自治体の総合計画を踏まえ、5つの政策目標を設定しこれらの目標を達成するための対策案を検討。

地域や道路の状況や課題

圏域の将来像

地域の将来像

1. 災害等による通行止め時に機能するネットワークの確保
2. 安全性・走行性の向上
3. 産業の活性化
4. 観光振興の促進
5. 救急医療機関への速達性、確実性の確保

■ 対策案の検討

【通行止め時のネットワークの確保】

- ・ 通行止め時の代替路が確保されているか。
- ・ 要防災対策箇所及び洪水浸水想定区域を改善又は回避できるか。

【安全性・走行性の向上】

- ・ 構造不良箇所が改善され安全性、走行性が向上できるか。
- ・ 死傷事故率が全国平均を上回る箇所の緩和または回避ができるか。

【産業の活性化】

- ・ 交通混雑の緩和と回避ができ、企業活動や農産品輸送を支援する産業拠点への速達性が向上できるか。

【観光振興の促進】

- ・ 交通混雑の緩和と回避ができ、周遊性の向上を支援する観光拠点及び観光地間の速達性が向上できるか。

【救急医療機関への速達性・確実性の確保】

- ・ 交通混雑の緩和と回避ができ、救急医療機関への速達性が向上できるか。
- ・ 代替路が確保され、確実性が向上できるか。

○ 対策案を検討する上でのその他の配慮事項

【生活環境・自然環境の保全と調和】

【生活への影響】

【工事の影響】

【経済性への配慮】

【維持管理への配慮】

当該地域の高規格幹線道路の整備方針を検討
(既存の道路ストックの活用も含め、複数の対策案を設定し検討)

2. 「須子～小浜間」の検討

2. 1. 第2回意見聴取の概要

2. 1. 第2回意見聴取の概要

1) 意見聴取の概要

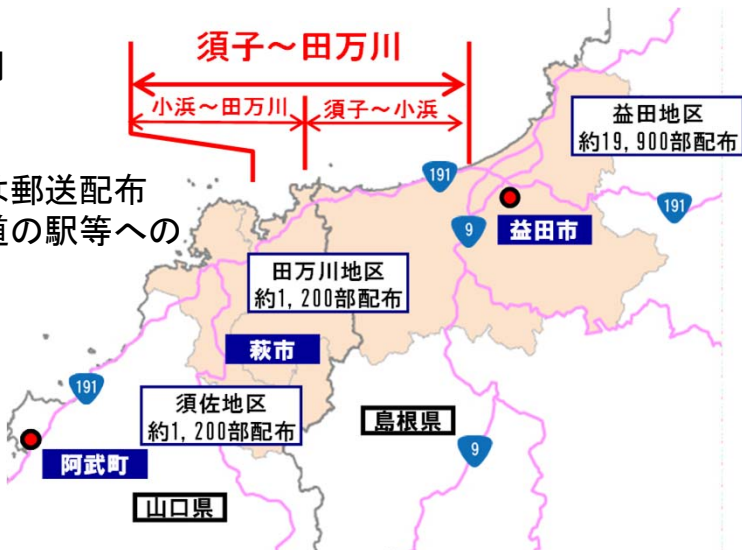
■意見聴取の項目

■調査期間
平成31年3月～令和元年6月

■配布方法
①住民は全戸配布、企業は郵送配布
②上記以外は市町役場や道の駅等へのアンケート用紙の設置
③HP上でのWEBアンケート

■対象：
下表の通り

＜アンケート配布範囲＞ ※配布数は地域住民アンケート



住民アンケート(全戸配布・郵送): 約22,300世帯		
益田市	旧益田市	約19,900世帯
萩市	旧田万川町	約2,400世帯
	旧須佐町	
事務所アンケート(郵送): 約1,900社		
住民アンケート全戸配布エリアに本店・支店・営業所のある企業		約1,900社
道路利用者アンケート(郵送): 39箇所		
常設	道の駅、官公庁等	39箇所
道路利用者アンケート(ヒアリング): 道の駅14箇所、観光地5箇所		
道の駅	ゆうひパーク浜田、ゆうひパーク三隅、サンエイト美都、シルクウェイにちはら、津和野温泉なごみの里、匹見峡、阿武町、萩往還、あさひ、ゆとりパークたまがわ、ハピネスふくえ、萩しーまーと、うり坊の郷katamata、萩・さんさん三見	
観光地	萩・石見空港、万葉公園、グラントワ、太鼓谷稲荷神社、松陰神社	
道路利用者アンケート(WEB)		
浜田河川国道事務所のHPにWEBアンケートを掲載		
ヒアリング: 54団体・観光地5箇所(島根県、山口県、益田市、萩市、阿武町)		
自治体		
警察署・消防署・病院(2次医療施設)		
農協		
漁協		
森林組合		
商工会議所		
観光協会		
地元企業(農業・畜産業・林業・観光業)		
工業団地(石見臨空ファクトリーパーク)		
ドライバー(運送会社・バス会社)		
地域外企業		

■質問内容

【質問票】
(回答はがきに記載してください)

提示した須子～小浜間の対策案(別線バイパスルート案)に対して、みなさまが配慮すべき(重要)と思う事項等についてご意見をいただき、対策案決定の参考にいたします。

質問1 今回、別線バイパス3ルート案(案)を検討していますが、地域にとって望ましい案を考える際に、何が重要と思いますか。
以下の重視すべき項目①～⑬から特に配慮すべき(重要)と思われる項目について最大3つまで選んで頂き、番号とその理由や内容をお書き下さい。

- ① 通行止め時の代替路が確保できること。
- ② 交通の安全性が向上できること。
- ③ 主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。
- ④ 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。
- ⑤ 救急医療機関へ早く、確実に搬送できること。
- ⑥ 大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。
- ⑦ 自然環境への影響が小さいこと。
- ⑧ 移転等が必要な家屋が少ないこと。
- ⑨ 集落との連結性に優れること。
- ⑩ 工事中の交通規制等が少ないこと。
- ⑪ 建設に要する費用が少ないこと。
- ⑫ 維持管理に要する費用が少ないこと。
- ⑬ その他(上記以外で重視すべき項目についてご自由にお書き下さい)

質問2 道路整備をすることによる懸念事項や配慮した方が良くと思う事項(周辺への影響、経済性、拠点等)について意見などありましたら、ご自由にお書き下さい。

2.1. 第2回意見聴取の概要

2) 意見聴取の方法・対象者と回収率

調査種別	対象者		実施期間	対象地区・団体等	配布件数	回収件数	回収率	
アンケート	地域住民	益田市	平成31年3月27日～ 令和元年5月17日	益田市(旧益田市)	19,858	1,955	9.8%	
		旧田万川町・須佐町		萩市(旧田万川町・須佐町)	2,384	379	15.9%	
		その他		住所の記載がないもの、その他		18		
		合計		-	22,242	2,352	10.6%	
	事業所	事業所	平成31年3月27日～ 令和元年5月17日	住民アンケート全戸配布エリアに本店・支店・営業所のある企業	1,905	359	18.8%	
	道路利用者	常設	平成31年3月27日～ 令和元年5月17日	道の駅、官公庁等	-	1,864	-	
		インタビュー調査	令和元年5月25日(土) 令和元年5月29日(水)	休日: 道の駅13箇所、観光地5箇所 平日: 道の駅14箇所	-	1,430	-	
		合計	-	-	-	3,294	-	
	WEB	WEB調査	平成31年3月27日～ 令和元年5月17日	浜田河川国道事務所等のHPにWEBアンケートを掲載	-	474	-	
	合計		-	-	-	6,479	-	
ヒアリング	関係自治体		平成31年3月～ 令和元年6月	沿線地域の自治体		17	団体・企業	
	警察署・消防署・病院・介護施設			警察署・消防署・病院(2次医療施設)		4	団体・企業	
	農協			農協関連		2	団体・企業	
	漁業			漁業関連		2	団体・企業	
	森林組合			森林組合		2	団体・企業	
	商工会議所			商工会議所		1	団体・企業	
	観光協会			観光協会		4	団体・企業	
	地元企業			農業・畜産業・林業・観光業		7	団体・企業	
	工業団地			石見臨空ファクトリーパーク		8	団体・企業	
	ドライバー			運送会社・バス会社		5	団体・企業	
	地域外企業			地域外企業		2	団体・企業	
	合計			-	54 団体・企業			

2. 1. 第2回意見聴取の概要

3) 回収率を上げるための取り組み

■道路利用者アンケートの常設



■道の駅でのインタビュー調査



■WEBアンケート実施

山陰道（須子～田万川）の道路計画に対するアンケート第2回

※アンケート画面中にブラウザの「戻る」「更新」ボタンをクリックすると、このページの画面内容がクリアされますのでご注意ください。

進捗 0%

■山陰道は、鳥取県鳥取市から鳥根県を経由し山口県下関市に至る総延長約 380 km の高規格幹線道路であり、山陰地方の地域経済の活性化、観光の振興、災害に強い道路ネットワークの確保を主な目的として整備を進めています。今回のアンケートは、須子～田万川間のうち、須子～小浜間の対策案（別線バイパスルート案）を検討する際に配慮すべき（重要）と思う事項等について、ご意見を伺うものです。前回に引き続き、本調査にご協力いただきますようお願いいたします。

※高規格幹線道路とは、全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路のことです。

平成 28 年 11 月～12 月に実施した第 1 回意見聴取では、「交通の課題」、「地域の課題」、「山陰道が利用しやすい道路となるためのアイデアや整備をする上で配慮した方がよいこと」や「道路整備の必要性」について、約 7, 8 0 0 件のご回答を頂きました。ご協力ありがとうございました。

■ 今回のアンケートの対象は、「須子～小浜」間です。

【画像を拡大】

※【画像を拡大】をクリックいただくと、拡大してご覧いただけます。

次へ

※改ページ

■広報誌（市報）



■ケーブルテレビ

つなげよう山陰道!

山陰道（須子～田万川）の道路計画 第2回 アンケート調査

実施期間 平成31年3月27日～5月17日

【調査はがき】

地域にお住まいの皆様へ
国土交通省からのお願いです
山陰道（須子～田万川）の計画にあたり、アンケート調査のご協力をお願いします。

山陰道（須子～田万川）の計画にあたり、アンケート調査のご協力をお願いします。

山陰道（須子～田万川）の計画にあたり、アンケート調査のご協力をお願いします。

■新聞広告

国土交通省からのお願い Hamada Office of River and National Highway

山陰道（須子～田万川）の道路計画 第2回 アンケート調査 実施中

「須子～小浜」の対策案について

アンケート実施期間 平成31年3月27日～5月17日（金）まで

■アンケート調査の目的

山陰道は、山陰地方の地域経済の活性化、観光の振興、災害に強い道路ネットワークの確保を主な目的として整備を進めています。今回のアンケートは、須子～田万川間のうち、須子～小浜間の対策案（別線バイパスルート案）を検討する際に配慮すべき（重要）と思う事項等について、ご意見を伺うものです。

■アンケート調査方法

地域住民の方には「住民アンケート」、事業者および企業者の方には「事業者企業アンケート」を実施しています。下記にそれぞれ対象者が記されています。回答はがきに回答を記入し、郵便ポストに投函をお願いします。

アンケート調査対象区域

アンケート調査にご協力をお願いします!

<http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/sanindo/>

0855-22-3120

地域を支える山陰道とするために

山陰道は、山陰地方の地域経済の活性化、観光の振興、災害に強い道路ネットワークの確保を主な目的として整備を進めています。

今回のアンケートは、須子～田万川間のうち、須子～小浜間の対策案（別線バイパスルート案）を検討する際に配慮すべき（重要）と思う事項等について、ご意見を伺うものです。ぜひアンケート調査にご協力ください。

なお、小浜～田万川間については今後バイパス案を含め検討を進め、別途意見聴取を実施予定です。

■アンケートの概要

○須子～田万川間にお住まいの方、事業者を対象としたアンケート（郵送で封筒が届きます）

○道路利用者を対象としたアンケート（市内の道の駅、市役所、各総合事務所にアンケート用紙があります。）

△アンケート調査対象区域

6 救市役所 〒758-8555 救市大江向5 1 0 ☎0838-25-3131 fax0838-26-5458

山陰道（益田市須子～田万川間）のアンケート調査を実施しています

国土木保 ☎25-3140

○インターネットでのアンケート

国土交通省浜田河川国道事務所のホームページ（<http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/sanindo/>）からアンケートに回答できます。どなたでも回答できますので、ぜひご意見をお寄せください。

■アンケート期間 5月17日まで

△アンケート調査対象区域

＜郵送されるアンケート用紙＞
上：世帯あて
下：事業所あて

2. 1. 第2回意見聴取の概要

4) 産業振興における意見聴取の工夫について

産業振興において、広い視野で産業活性化に係る意見を喚起する取組について

■前回の小委員会でのご指摘を踏まえ、質問票の標記を変更

旧

【質問票】
(回答はがきに記載してください)

提示した漢字～小委員の対案(別紙「バイパスルート案」)に対して、みなさまが配慮すべき(重要)と思う事項等についてご意見をいただき、対案決定の参考にいたします。

質問1 今回、別紙「バイパスルート案」を検討していますが、地域にとって望ましい案を考える際に、何が重要だと思いますか。
以下の重視すべき項目1～13の中から特に配慮すべき(重要)と思われる項目について最大3つまで選んで頂き、番号とその理由や内容をお書き下さい。

1 通行止め時の代替路が確保できること。
2 交通の安全性が向上できること。
3 産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。
4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。
5 救急医療機関へ早く、確実に搬送できること。
6 大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。
7 自然環境への影響が小さいこと。
8 移転等が必要な家屋が少ないこと。
9 集落との連絡性に優れること。
10 工事中の交通規制等が少ないこと。
11 建設に要する費用が少ないこと。
12 維持管理に要する費用が少ないこと。
13 その他(上記以外で重視すべき項目についてご自由にお書き下さい)

質問2 道路整備をすることによる懸念事項や配慮した方がよいと思うことなどがありましたら、ご自由にお書き下さい。

質問は以上です。ありがとうございます。

■回答方法 回答は、右記の返信用はがきに記入し、切り取って郵便ポストに投函して下さい
■郵便の切り 平成●年●月●日(●)までに投函ください。

【回答はがき】
(質問票をご覧いただき回答してください)

質問1 左記の重視すべき項目1～13のうち、特に配慮すべき(重要)と思われる項目について、番号とその理由・内容をお書きください。

1 通行止め時の代替路が確保できること。
2 交通の安全性が向上できること。
3 産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。
4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。
5 救急医療機関へ早く、確実に搬送できること。
6 大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。
7 自然環境への影響が小さいこと。
8 移転等が必要な家屋が少ないこと。
9 集落との連絡性に優れること。
10 工事中の交通規制等が少ないこと。
11 建設に要する費用が少ないこと。
12 維持管理に要する費用が少ないこと。
13 その他(上記以外で重視すべき項目についてご自由にお書き下さい)

第3回小委員会提示調査票

新

【質問票】
(回答はがきに記載してください)

提示した漢字～小委員の対案(別紙「バイパスルート案」)に対して、みなさまが配慮すべき(重要)と思う事項等についてご意見をいただき、対案決定の参考にいたします。

質問1 今回、別紙「バイパスルート案」を検討していますが、地域にとって望ましい案を考える際に、何が重要だと思いますか。
以下の重視すべき項目1～13の中から特に配慮すべき(重要)と思われる項目について最大3つまで選んで頂き、番号とその理由や内容をお書き下さい。

1 通行止め時の代替路が確保できること。
2 交通の安全性が向上できること。
3 主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。
4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。
5 救急医療機関へ早く、確実に搬送できること。
6 大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。
7 自然環境への影響が小さいこと。
8 移転等が必要な家屋が少ないこと。
9 集落との連絡性に優れること。
10 工事中の交通規制等が少ないこと。
11 建設に要する費用が少ないこと。
12 維持管理に要する費用が少ないこと。
13 その他(上記以外で重視すべき項目についてご自由にお書き下さい)

質問2 道路整備をすることによる懸念事項や配慮した方がよいと思う事項(周辺への影響、経済性、拠点等)について意見などありましたら、ご自由にお書き下さい。

質問は以上です。ありがとうございます。

■回答方法 回答は、右記の返信用はがきに記入し、切り取って郵便ポストに投函して下さい

【回答はがき】
(質問票をご覧いただき回答してください)

質問1 左記の重視すべき項目1～13のうち、特に配慮すべき(重要)と思われる項目について、番号とその理由・内容をお書きください。

1 通行止め時の代替路が確保できること。
2 交通の安全性が向上できること。
3 主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。
4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。
5 救急医療機関へ早く、確実に搬送できること。
6 大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。
7 自然環境への影響が小さいこと。
8 移転等が必要な家屋が少ないこと。
9 集落との連絡性に優れること。
10 工事中の交通規制等が少ないこと。
11 建設に要する費用が少ないこと。
12 維持管理に要する費用が少ないこと。
13 その他(上記以外で重視すべき項目についてご自由にお書き下さい)

主要な産業拠点
として例示

アンケート調査票

■企業等のヒアリングに際し、自由意見として、益田市の産業の現状や、今後の山陰道の整備による期待に関して、意見聴取を実施

■その結果、山陰道への期待や自由意見の中で産業に関する意見も幅広く聴取し、以下のような産業活性化に係る意見も収集している

- ・山陰道の整備により、配送時間が短縮されることで配送料が安くなり、経費削減が実現する。
- ・山陰道の整備により、コスト面を考慮して自社で陸送を行うことが考えられる。
- ・山陰道西側の整備により、今後、配送時間の短縮が見込まれ経費削減が可能と考えられる。
- ・山陰道の整備により、通勤圏内が広がることで出雲・松江方面や山口方面からの人材確保が可能となり、産業の活性化につながる。
- ・現状、人材確保に至っていない山口方面からの雇用促進が期待される。
- ・山陰道が整備されることで、産業が栄える。産業が栄えてこそ地域や観光の活性化が図られるのではないかな。

15

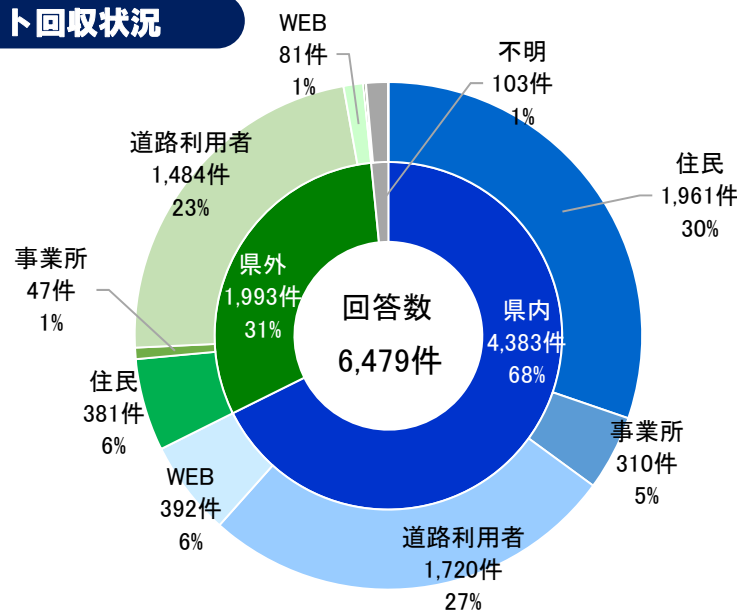
2. 2. 第2回意見聴取の結果

2.2. 第2回意見聴取の結果

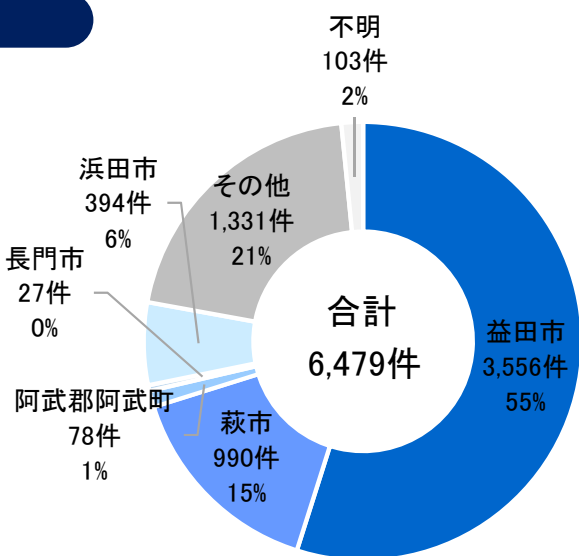
1) アンケート回答者属性

○住民約2,400人、道路利用者約3,300人、事業所約360社、WEB約470人から合計約6,500件の意見聴取を実施。
○回答者のうち、益田市からの回答が約6割を占める。
○回答者のうち性別は約7割が男性であり、年代としては50代までが約5割を占める。

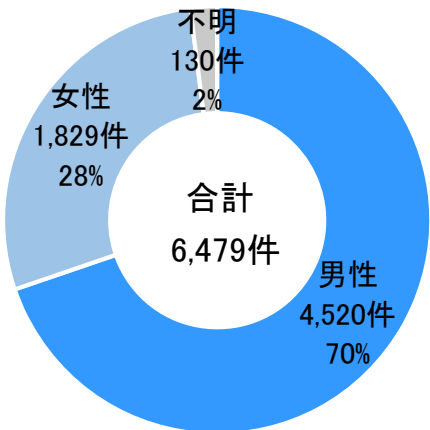
アンケート回収状況



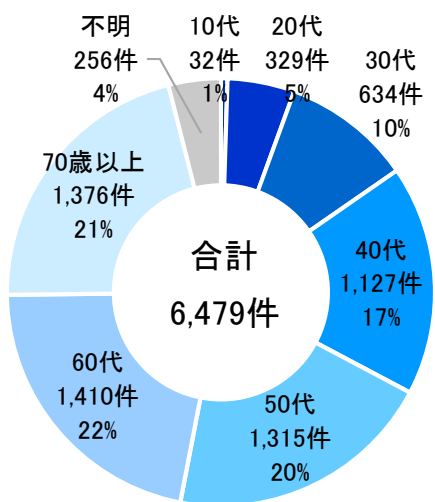
回答者住所



回答者性別



回答者年齢



2.2. 第2回意見聴取の結果
2) 特に重視すべき項目

○対策案(ルート帯案)を検討する際に重視すべきだと思う事項として「④観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること」の回答数が最も多いものの、道路整備による効果・改善点に挙げた項目については大きな偏りがない傾向。
○住民、事業所、道路利用者、WEB毎で比べても、重視すべき項目は概ね同じ傾向となった。

特に重視すべきと思われる項目		全体※ (回答者数:6,124人)	住民 (回答者数:2,100人)	事業所 (回答者数:317人)	道路利用者 (回答者数:3,234人)	WEB (回答者数:473人)
効果・改善点 道路整備による	1 通行止め時の代替路が確保できること。	35%	41%	43%	29%	47%
	2 交通の安全性が向上できること。	30%	31%	32%	29%	38%
	3 主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。	34%	30%	32%	36%	43%
	4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。	37%	45%	40%	29%	46%
	5 救急医療機関へ早く、確実に輸送できること。	31%	38%	37%	25%	41%
配慮すべき点	6 大気質騒音等の生活環境への影響が改善すること。	4%	4%	3%	4%	1%
	7 自然環境への影響が小さいこと。	11%	11%	9%	11%	8%
	8 移転等が必要な家屋が少ないこと。	6%	10%	8%	4%	5%
	9 集落との連絡性に優れること。	7%	9%	8%	6%	5%
	10 工事中の交通規制等が少ないこと。	8%	8%	11%	9%	7%
	11 建設に要する費用が少ないこと。	15%	20%	19%	11%	16%
	12 維持管理に要する費用が少ないこと。	12%	16%	16%	8%	15%
	13 その他	4%	4%	2%	4%	2%

※質問1に回答した人を対象に集計しているため、全回答件数6,479と一致しない

2.2. 第2回意見聴取の結果
2) 特に重視すべき項目 (自由意見)

○観光地のアクセス向上、代替路の確保、救急医療の支援、産業拠点のアクセス向上等に期待が寄せられている。

Table with 2 main columns: '特に重視すべきと思われる項目' and '理由や内容'. It contains detailed feedback on road improvement and safety, categorized into two main points: ①通行止め時の代替路が確保できること and ②交通の安全性が向上できること.

2.2. 第2回意見聴取の結果
2) 特に重視すべき項目（自由意見）

特に重視すべきと思われる項目		理由や内容
道路整備による効果・改善点	③主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。 【2,083件】	・若い人が益田に残るためには働く会社が多い方が良い。主要な産業拠点のアクセス向上で企業を呼び込む事が大事。(住民／益田市川澄町／60代男性)
		・人口減少の歯止めとして企業誘致が前提となる。そのために工業団地に利便性のある道路網が必須。(住民／益田市黒周町／90代男性)
		・地域活性のため新たに産業を興す事が必要。ファクトリーパークに企業を呼ぶには萩・石見空港と併せて山陰道の整備が大切である(住民／益田市元町／60代男性)
		・益田市の産業拠点であるファクトリーパークや国営農地へのアクセスが速くなれば県東部、他県からの人や資材の流通も増えて産業の発展につながると思う。(住民／益田市中吉田町／50代女性)
		・江津の工業団地の近くに高速道インターができれば工業団地への企業の誘致率がはねあがったという話をきいた。益田市のファクトリーパークは誘致率がそんなに良くないと思うので、同様の手法で誘致率をあげてほしいと思ったため。(住民／益田市東町／40代女性)
	④観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。 【2,245件】	・石見臨空ファクトリーパークへのアクセスが向上することで、企業誘致にもつながると考えられるし、それによって地元からの雇用が増え、定住が促進されれば学校や診療所等も増えてくるかもしれない。益田市の地域活性化を考えると「案C:産業拠点へのアクセス性を優先したバイパス案」が最も費用対効果大きい(ヒアリング／林業)
		・空港と合わせ高速道路網が整備されることで周遊ルートや商品の造成が行われやすくなり、流入人口の増加にもつながる。(住民／益田市西平原町／50代男性)
		・空港へのアクセス(時間短縮)により利用客の増加が見込まれることで空港の増便・発着時間の利便性の改善が望まれる。(住民／益田市中須町／70代男性)
		・将来的な益田市の位置づけを考えた時、石見空港やJRの山陰線と山口線の連結点であることを考慮すると、津和野・萩を含めた広域的な人の交流を拡大するゲートウェイとしての役割。(住民／益田市須子町／70代男性)
		・石見空港を拠点として、他の空港及び主要観光地を定時性のある高速道路で結ぶ必要がある。(住民／益田市白岩町／70代男性)
		・石見圏域の発展のためには観光施策による振興が重要。益田萩間の速達性のみならず、津和野へのアクセス向上も重要。(道路利用者／浜田市熱田町／50代男性)
		・地域産業の活性化のためには、交流人口の拡大は重要であり、観光拠点へのアクセスの向上はこれに寄与する。(道路利用者／浜田市殿町／50代男性)
		・萩石見空港の拠点性を活かして、萩市や津和野町と連携した観光振興が重要と考えており、益田市から西方面や南方面のアクセス向上が必要と考えている。(ヒアリング／益田市観光協会)
		・萩・石見空港へのアクセス強化は重要である。特に、道路利用者への移動のわかりやすさという観点でいうと、高速道路ネットワークができていることが最も重要であり、時間短縮が数分であれば、時間短縮はその次に重要な要素となる。(ヒアリング／萩市)

2.2. 第2回意見聴取の結果

2) 特に重視すべき項目（自由意見）

特に重視すべきと思われる項目		理由や内容
道路整備による効果・改善点	⑤救急医療機関へ早く、確実に輸送できること。 【1,915件】	・医療が遅れている地域であるため、 住民の命を守るための道路の役割は大きい 。(住民／益田市高津町／40代男性)
		・拠点病院もなく、医師が常駐していないため、 緊急の場合益田又は萩へ行くしかなく道路が災害等でふさがってしまうと、命にかかわることになる と思われます。(住民／萩市須佐町／60代女性)
		・高齢化が進んでおり、 緊急時により早く医療機関に運び込めるよう道路の整備が必要 。(住民／益田市東町／50代男性)
		・ 救急医療の地域拠点の益田へ早く確実に搬送できることは当然で、人口の多い津和野方面の事も考慮すべきである 。(住民／益田市乙吉町／80代男性)
		・ 定住を勧めるには、地域医療の確保は必要 であり、地域の生き残りをかけて重要です。(住民／益田市美都町／50代男性)
		・益田赤十字病院への搬送が多いため、当病院への 速達性、確実性が重要 。案Cについては小川地区からの アクセスも良くなるため 、内陸側・海側両方をカバーできる点も優位である。(ヒアリング／消防署)
配慮すべき点	⑥大気質騒音等の生活環境への影響が改善すること。 【225件】	・大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。 排気ガスが住民に影響しない工夫 をして欲しい。(住民／益田市戸田町／50代男性)
		・ルート案により、 集中していた流れが改善されて、騒音等の生活環境が良くなる と思います。新しい道が出来ることによって、そんな場所が新しく出る事はよくないです。(住民／益田市喜阿弥町／50代女性)
		・ 現在の191号を通行する車はかなり大型車が多い、又、積載物の重量もさまざまでしょうが、走行による地響きもあり特に夜中に速度も速い事もあり、騒音もある、よって山陰道を走ってもらう事により少しでも減る 。精神面でも多少は落ち着くと思う。(住民／益田市高津町／70代男性)
	⑦自然環境への影響が小さいこと。 【645件】	・ 自然をまもるという観点を忘れず、自然破壊を極力少なく するようにして欲しいから。(住民／益田市遠田町／60代男性)
		・田舎の良さであるこの 益田の美しい自然環境が、できるだけそなわれない ような配慮がほしいです。(住民／益田市川登町／50代女性)
		・ 地域の重要な観光コンテンツである自然環境を破壊することなく、景観を守る ことが必要。(事業所／益市内田町／50代男性)
	⑧移転等が必要な家屋が少ないこと。 【397件】	・ 家屋移転は少ない方がよい 。多ければその町内の崩壊につながりかねない。費用も多くなる。(住民／益田市白上町／50代男性)
		・道路完成が長期化しないよう 家屋等の移転が少なく 建設費用が少なく早く完成する事を望む。(住民／益田市下本郷町／70代男性)

アンケート質問1回答件数：6,124件、ヒアリング回答件数：54件、【】はアンケート＋ヒアリングの回答件数

2.2. 第2回意見聴取の結果
2) 特に重視すべき項目（自由意見）

特に重視すべきと思われる項目		理由や内容
配慮すべき点	⑨集落との連絡性に優れること。 【422件】	・自然豊かな地域を集落として存続するためにも 中山間地域の利便性を考えてほしい 。(住民／益田市久城町／60代女性)
		・新しい道路を使って他県から来た人、他県に出る人だけの道路でなく、 地元益田の人が沢山使えるインターチェンジを適切に作ってほしい 。(住民／益田市中垣内町／70代男性)
		・ 縮小する集落間の交流を促進させ、地域全体を活性化させる道路にすべき 。(道路利用者／大田市大田町／40代男性)
		・ 中西を中心として交通の便が悪いので、連絡性を重視 して欲しい。(住民／益田市虫追町／40代男性)
	⑩工事中の交通規制等が少ないこと。 【508件】	・日常絶え間なく地域の配達を行っているため、 交通規制に伴う事業活動への支障が極力少なくなるよう整備してほしい (ヒアリング／郵便業)
		・道路が良くなるので多少のことはガマンすべきと思うが、そこに暮らす方々にとっては生活に影響するので、 交通規制は少ない方が良いと思う 。(住民／益田市遠田町／50代男性)
		・地方部で 交通規制時の代替路の選択肢も少ないので、工事規制は少ないほうが良い と思う。(道路利用者／広島市南区／30代男性)
	⑪建設に要する費用が少ないこと。 【926件】	・ 少子化が進む時代に建設費用をより少なく してほしいと思います。(住民／益田市三宅町／60代女性)
		・早期開通が最優先と考え、財政状況が厳しい中では 少しでも費用が少ないことが早期開通 につながるから。(道路利用者／松江市古志原／50代男性)
		・市の財政を少しでも他の分野の改善に充てるためには、 最低限の予算で最大限の効果 を出す事が市政で非常に重要であると考えからです。(住民／益田市波田町／30代女性)
	⑫維持管理に要する費用が少ないこと。 【706件】	・維持費は今後ずっとかかるものなので 将来人口が減っていても維持可能なものでないといけない と思うから。(住民／益田市元町／20代女性)
		・風水害や自然災害でいつも修復費用がかからない様なルートや建設を考え、 維持管理の少ない 将来を見越した要件を考えてほしい。(住民／益田市赤城町／80代男性)
		・ランニングコストが高くなると 維持管理への費用が高くなり、自治体、地元住民への負担が増える ため。(道路利用者／松江市西津田町／30代男性)
		・つくる事は出来ても維持管理の出来ないものは、目的は達成した事にはならない。 長く安全に使用できるようにして欲しい 。(住民／益田市中島町／男性)

アンケート質問1回答件数：6,124件、ヒアリング回答件数：54件、【】はアンケート+ヒアリングの回答件数

2.2. 第2回意見聴取の結果
2) 特に重視すべき項目（自由意見）

○①～⑫以外の意見としては、「早期整備」や「山陰道の構造（ルート・車線数・付加車線等）」などに関する意見が寄せられている。

特に重視すべきと思われる項目		理由や内容
その他	・早期整備【27件】	・人口減少に歯止めがかからない、石見特に県西部は深刻である。若者が働ける場とターンが増となる環境を作ることが最重要。 一日も早い着工完成をお願いします（住民／益田市久城町／70代男性）
	・整備不要【10件】	・現在道路状況は、一部は改良を必要とする所も或と思われるが地域全体を考え見ると、交通の便は十分に満たされていると思います。 必要に応じて改良、維持されたらと思います。（住民／益田市飯田町／70代男性）
	・その他拠点へのアクセス【7件】	・山口市方面、津和野町方面の連絡性が良いことが重要。（住民／益田市西平原町／60代女性）
	・休憩施設整備【8件】	・全国的に人気のサービスエリアのように、わざわざ行きたくなるテーマをもつ工夫をして、人が集える場所をつくっていく。（住民／萩市上田万町／60代男性）
	・他路線整備【14件】	・益田圏内より山陽側に向けてのアクセスを重視してほしい。（住民／益田市津田町／50代男性）
	・現道課題（カーブ、舗装等・渋滞解消を期待）【19件】	・益田市内（特にゆめタウンから中吉田中島方面）への渋滞の緩和。（住民／益田市中須町／50代女性）
	・経済活性化を期待【11件】	・山陰道が九州方面へつながることで、地域の産業構造が変わり新たな展望が開ける。（住民／益田市中垣内町／50代女性）
	・事業説明・意見反映・費用対効果（実用性、利用率が重要）【9件】	・地域住民の意見等を反映できるようなルート選定をしてほしい。（住民／益田市神田町／30代男性）
	・景観（景観性が重要）【16件】	・道路・橋そのものが観光拠点になるよう、デザインしてほしい。（住民／萩市江崎／50代男性）
	・山陰道本線の構造（ルート・車線数・付加車線）【17件】	・片側一車線だと一台ゆっくりした車が走行していると混雑するので、二車線化とは言わないまでも追越車線を増やして欲しい。（住民／益田市美都町／50代男性）
	・IC（位置・アクセス道路・誘導案内等）【7件】	・国道191号から本流に入るのにわかりやすく近い方がいい。（事業所／萩市須佐町）
	・案A～Cに対する意見【7件】	・将来的に津和野山口へのアクセスも考えるとC案が良い。（住民／益田市須子町／60代男性）
	・その他【77件】	・山陽側の代替道路として必要。（住民／益田市飯田町／60代男性） ・全て大切なこと。自然を壊して、お金をたくさん使って、住民を困らせて道路を作るなら別になくて良いので全てに配慮して欲しい。 （住民／萩市下田万町／30代女性） ・有料でいいと思う。無料区間沿線の衰退が著しい。三刀屋～頓原など。（道路利用者／江津市桜江町／40代男性）

2.2. 第2回意見聴取の結果

3) 道路整備をすることによる懸念事項、配慮事項等の自由意見

○質問2に寄せられた懸念事項、配慮事項等に関しては「早期整備」が多く寄せられている

特に重視すべきと思われる項目	理由や内容
・早期整備【450件】	・アンケート等の住民の声を吸い上げようという取り組みは大変いい事と思いますが、道路はつながってこそ意味があると思います。一刻も早い整備完了、供用開始をお願いします。(住民／益田市乙吉町／40代男性)
・整備不要【49件】	・人口が減少していくなか、地域の生活を守るために必要だとは思いますが、この地域で暮らす人にとって何が最優先されるべきかを考えるべきでは。災害時の代替路、安全ということは重要だとは思いますがはたして道路がこれ以上必要なのか疑問です。(住民／益田市昭和町／50代女性)
・その他拠点へのアクセス【42件】	・観光情報源の道の駅へのアクセスは是非考慮すべきだと思います。観光の町津和野への速達性が向上できるとよい。(住民／萩市下田万町／70代男性)
・休憩施設整備【79件】	・経済性を重視するなら観光客等が立ち寄ってみたいと思われる道の駅サービスエリア整備を建設計画に盛り込んで欲しい。地元農業・事業者等が出品販売出来る場所等。(住民／益田市三宅町／60代男性)
・他路線整備【153件】	・益田市から中国道、山陰道への接続も必要だと思います。益田市から山口市または広島市への幹線道路の整備の方が経済性が高いと思います。(住民／益田市高津町／70代男性) ・今回のアンケート対象区間ではないけど三隅、益田間を早く開通してほしい。(住民／益田市虫追町／50代男性)
・現道課題(カーブ、舗装等・渋滞解消を期待)【180件】	・高津の交差点の渋滞が解消できれば良いと思います。(道路利用者／浜田市竹迫町／50代男性)
・経済活性化を期待【104件】	・道路整備をすることにより、今まで以上に周辺地域が利便性に富み、経済発展することを強く望む。将来を見据えたバイパスルートを選定してもらいたい。(住民／益田市神田町／70代男性)
・事業説明・意見反映・費用対効果(実用性、利用率が重要)【75件】	・要望聴取のアンケートを含めいかに地域住民や利用者に可能な限り状況(計画や進捗)を知らしめるかが、その後の利用を含め重要だと思います。(事業所／益田市中吉田町／60代男性)
・景観(景観性が重要)【60件】	・完成した山陰道が多くの人から利用されるよう、利便性だけではなく利用者側の景観のすばらしさも考慮してほしい。日本海をながめることができるスポットの確保なども考慮してほしい。(住民／萩市下田万町／50代男性)
・山陰道本線の構造(ルート・車線数・付加車線)【131件】	・追い越し車線がないと後ろに何台も従えることになりとても気の毒である。追い越してもらえる路側帯が多くあれば、安心して追い越してもらえるので配慮してほしい。(住民／益田市横田町／70代女性)
・IC(位置・アクセス道路・誘導案内等)【52件】	・インターチェンジの場所が大切。経済効果、観光力UPのためインターチェンジをどこにするのかよく考えていただきたい。(住民／萩市下田万町／50代男性)
・案A～Cに対する意見【224件】	・建設費(税金の使用)を少しでも抑える方が、市民からも理解されやすいと思うので案Aの方が良いと思います。(住民／益田市白上町／30代男性) ・日本海が大しけになっても問題なく(運転時の視野確保、強風の軽減)、目的地まで大回りしない案Bがよいと思います。(道路利用者／鹿足郡津和野町／40代男性) ・益田の振興には若者の職場があること、増えることです。産業振興につながる道の整備は一番大切。益田の将来のためにC案が必要。(住民／益田市横田町／60代男性)
・その他【654件】	・新設道路へ、サイクリングロードを並設し、市行政と相互に協力し車も自転車も人間も使える道路が必要。(住民／益田市横田町／60代男性) ・道路はつくって終わりではなく、活用が大事だと思います。(住民／益田市赤城町／30代男性) ・「配慮」という点では、これからインバウンド、インバヒットが予測されるので英語表記(案内標識板)も必要になるのでは。(住民／益田市遠田町／70代男性)

2.2. 第2回意見聴取の結果
4) 自治体ヒアリング

○自治体からは、「災害時の代替路」、「産業拠点へのアクセス」、「観光振興の支援」、「救急活動の支援」に関する意見が寄せられている。

自治体	主な意見(重視すべき事項)
島根県	・島根西部地域は人口減少が進んでいるため、産業振興が特に重要。ある程度大きな規模で雇用が見込める企業が誘致できるのは石見臨空ファクトリーパーク(工業団地)であり、産業拠点へのアクセス向上、高速道路の直結は重要である。また、国営農地や産業拠点へのアクセスのみでなく、これらの産業拠点から山陽、関西、九州等の市場への出荷・配送の効率向上も重要であり、これらを総じて産業面に寄与するルートが望ましい。 ・観光については広域的に捉えることが重要であり、萩・石見空港と萩中心部を結ぶだけではなく、津和野も視野にいれた観光周遊の向上、高速道路からの各地へのアクセスを重視すべきである。 ・島根西部のような道路網が少ない地域において通行規制があると、社会的損失の影響が大きいと、建設費用のみでなく、通行規制に伴う影響も加味した道路整備が重要。なるべく地域の住民が迷惑と思うような工事は避けるべきであり、通行規制の影響が小さく、工事期間が短いほうが良い。
益田市	・石見臨空ファクトリーパークへの企業誘致を図るため、大型トラック等のファクトリーパークへのアクセス、空港との連絡性向上が望ましい。また、従業員約700人と就職先の受け入れ場となっており、通勤利便性の観点も含めて、産業拠点へのアクセス性を考慮したルートが望ましい。 ・国道はスピードが速い車も多く、またファクトリーパークへの市道(雁丁線)はカーブがきつく大型車は通りにくいなど、安全面の課題があり、高規格道路の整備によって解消できるとよい。 ・萩石見空港の拠点性を活かして、萩市や津和野町と連携した観光振興が重要と考えており、益田市から西方面や南方面のアクセス向上が必要と考えている。 ・二条、中西方面や山間部から救急医療機関への救急搬送時の時間短縮も重要である。 ・国道191号は交通量が多く渋滞も発生している。工事規制の際の現道への影響が少なくなるよう配慮して欲しい。
山口県	・国道191号には代替路がなく、災害や事故等による通行止めの際には大きな迂回を要することから、代替路の確保は特に配慮すべき事項と考える。 ・本県萩市や長門市を中心とした山陰地域は、豊かな観光資源に恵まれており、観光振興に向けて世界遺産等を中心とした観光誘客や温泉街の再生プロジェクトなど、様々な取組が進められている。これらの取組を支援し、山陰地域のさらなる振興に繋げていくためには、広域交通拠点である萩・石見空港からの速達性向上が極めて重要と考えている。また、島根県益田市や津和野町等の観光地間の速達性向上により、周遊性が高まり、相乗効果により本県の観光客の増加も期待できることから、特に配慮すべき事項と考える。 ・萩市須佐地区、田万川地区及び阿武町など、救急搬送に時間を有する地域が存在しており、救急医療機関への搬送時間短縮が大きな課題である。益田市内の救急医療機関への搬送時間が短縮されれば、本県の救急医療体制の強化に繋がるため、特に配慮すべき事項と考える。 ・須子～田万川間の国道191号には代替路がなく、災害や事故で通行止めになると、大幅な迂回を強いられることから、救急医療体制の強化や観光振興を図る上で、代替性や信頼性の高い道路ネットワークの確保が重要である。
萩市	・当該地域においては、緊急時の救援ルート、災害時の物資輸送ルートとして、通行止め時の代替路が確保されることが最も重要である。なお、H25.7の豪雨災害の時には、小川地区が孤立し、田万川へのアクセスが途絶えたこともあり、沿岸部の災害時の通行確保も重要であるが、小川地区等の内陸部のアクセス確保も重要。 ・交通事故発生時等の通行止めにより市民生活、経済活動等に大きな支障となることから代替路の確保は必要 ・観光については、市単独で成り立つ時代ではなくなりつつあり、隣接地域とも結びつきながら魅力を高めていく必要があるが、そういったなかで移動時の高速道路ネットワークが重要であり、なかでも萩・石見空港へのアクセス強化や速達性確保は重要である。萩、津和野は連携しているため、萩・石見空港のアクセスを強化し、空港から萩、津和野へのネットワーク強化が重要である。 ・益田市域に企業進出が進めば、通勤圏である萩市の雇用・就業者の増加も期待できるため、産業拠点アクセスも重要。 ・田万川地域の医療は益田総合病院への搬送がかなり多いため、急病者の負担軽減のためにも、益田赤十字病院へ速達性のある道路が重要。

2.2. 第2回意見聴取の結果

5) まとめ

- アンケート調査において、「④観光拠点及び観光地間の速達性が向上できること」が最も重要視されているが、「①通行止め時の代替路が確保できること」、「②交通の安全が向上できること」、「③主要な産業拠点への速達性が向上できること」、「⑤救急医療機関へ早く、確実に搬送できること」の回答も多く、道路整備による効果・改善点に関する項目については偏りが無い傾向。
- ①～⑫以外の意見としては、「早期整備」「山陰道の構造」などの意見が寄せられている。
- 自治体からは、アンケートと同様に道路整備による効果・改善点に関する意見(①～⑤)が寄せられている。

対策案検討に重視すべき項目（アンケート）

特に重視すべきと思われる項目		全体 (回答者数: 6,124人)	住民 (回答者数: 2,100人)	事業所 (回答者数: 317人)	道路利用者 (回答者数: 3,234人)	WEB (回答者数: 473人)
効果・改善点による	1 通行止め時の代替路が確保できること。	35%	41%	43%	29%	47%
	2 交通の安全性が向上できること。	30%	31%	32%	29%	38%
	3 主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への速達性が向上できること。	34%	30%	32%	36%	43%
	4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の速達性が向上できること。	37%	45%	40%	29%	46%
	5 救急医療機関へ早く、確実に輸送できること。	31%	38%	37%	25%	41%
配慮すべき点	6 大気質騒音等の生活環境への影響が改善すること。	4%	4%	3%	4%	1%
	7 自然環境への影響が小さいこと。	11%	11%	9%	11%	8%
	8 移転等が必要な家屋が少ないこと。	6%	10%	8%	4%	5%
	9 集落との連絡性に優れること。	7%	9%	8%	6%	5%
	10 工事中の交通規制等が少ないこと。	8%	8%	11%	9%	7%
	11 建設に要する費用が少ないこと。	15%	20%	19%	11%	16%
	12 維持管理に要する費用が少ないこと。	12%	16%	16%	8%	15%
	13 その他	4%	4%	2%	4%	2%

自治体の主な意見（ヒアリング）

通行止め時の代替路に関する意見	・現状では国道の通行止め時には大きな迂回を強いられるため、通行止め時の代替路の確保は重要である。【益田市】 ・当該地域においては、 緊急時の救援ルート、災害時の物資輸送ルートとして、通行止め時の代替路が確保されることが最も重要 である。H25.7の豪雨災害を踏まえると、沿岸部の災害時の通行確保も重要であるが、小川地区等の内陸部のアクセス確保も重要。【萩市】
交通安全性の向上に関する意見	・交通事故が発生した場合、 通行止めにより市民生活、経済活動等に大きな支障 となることから、 交通の安全性の向上は重要 である。【萩市】 ・ 通過交通と地域交通が混在しなければ安全性も高まる ので、そのような整備をしてほしい。【益田市】
産業拠点へのアクセスに関する意見	・石見臨空ファクトリーパークへの企業誘致を図るため、大型トラック等の ファクトリーパークへのアクセス 、空港との連絡性向上が望ましい。また、従業員約700人と就職先の受け入れ場となっており、通勤利便性の観点も含めて産業拠点へのアクセス性を考慮したルートが望ましい。【益田市】
観光振興の支援に関する意見	・萩石見空港の拠点性を活かして、 萩市や津和野町と連携した観光振興が重要 と考えており、 益田市から西方面や南方面のアクセス向上が必要 と考えている。【益田市】 ・ 市単独で成り立つ時代ではなくなりつつあり、隣接地域とも結びつきながら魅力を高めていく必要がある が、そういったなかで移動時の高速道路ネットワークが重要であり、なかでも萩・石見空港へのアクセス強化や速達性確保は重要である。【萩市】
救急医療の支援に関する意見	・ 二条、中西方面や山間部から救急医療機関への救急搬送時の時間短縮も重要 である。【益田市】 ・田万川地域の医療は益田総合病院への搬送がかなり多く、患者の負担軽減のためにも、 益田赤十字病院へ速達性のある道路が重要 【萩市】

2. 3. 対応方針（案）の検討

1) 複数案の設定（ルート帯案）の概要

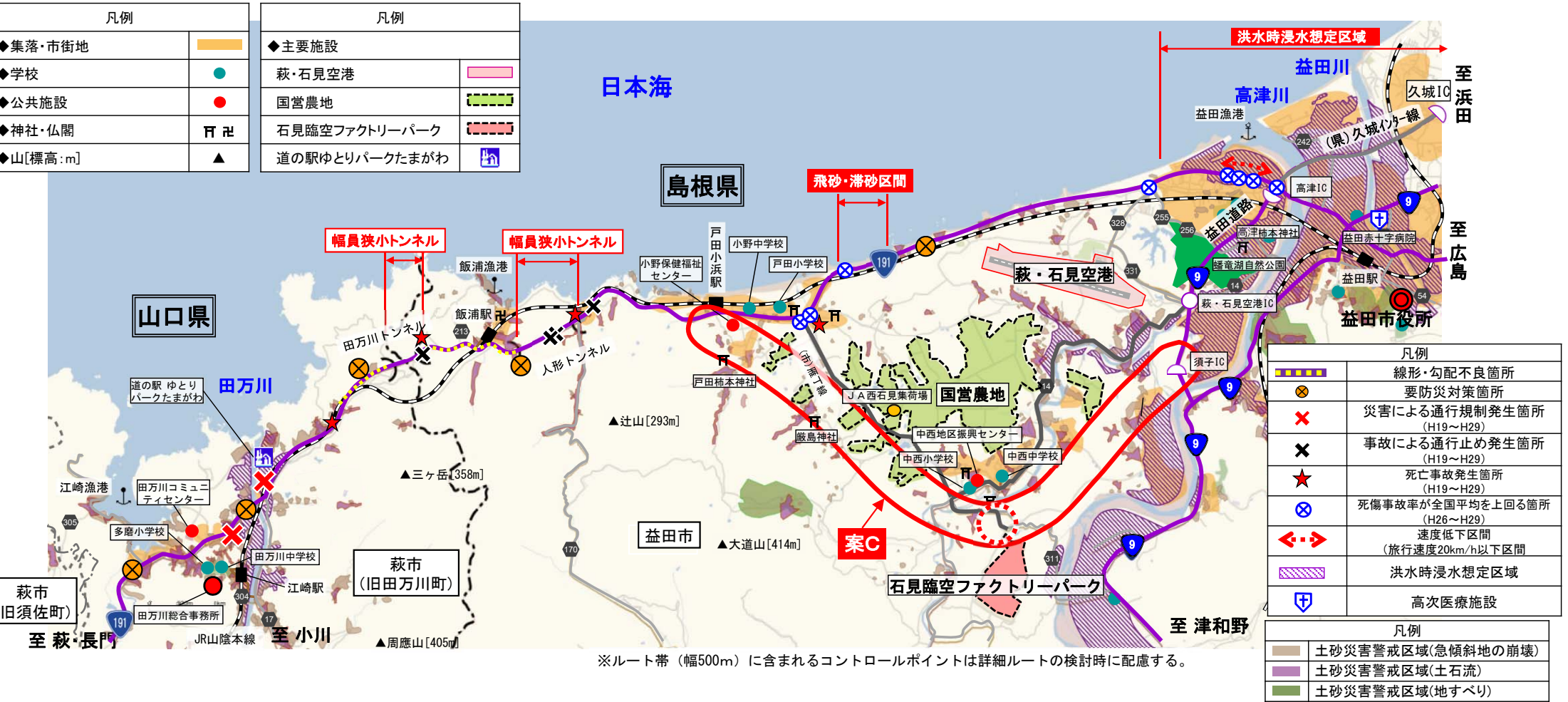


2.3. 対応方針（案）の検討
2）ルート帯案の比較・評価

○【案C:産業拠点へのアクセスを優先したバイパス案】は、全ての政策目標の達成が見込めるほか、ルート帯を検討する際に配慮すべき点についても、他案に比べて総合的に優れている。
○地域のアンケート調査や自治体ヒアリングにおいて重視すべきと回答のあった道路整備による効果・改善点の項目①～⑤や配慮すべき点の項目⑪⑫のいずれの項目についても総合的に案Cが優位である。

評価項目	番号	評価のポイント	須子～小浜間:案A	須子～小浜間:案B	須子～小浜間:案C
			須子～小浜間を最短で結びつつ萩・石見空港へのアクセス性を優先したバイパス案(延長 約7.5 km)	須子～小浜間を短く結びつつ産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)へのアクセス性も考慮したバイパス案(延長 約8.0 km)	須子～小浜間の産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)へのアクセス性を優先したバイパス案(延長 約9.5 km)
道路整備による効果・改善点	①	通行止め時の代替路が確保できること	△ 別線バイパス整備で代替路が確保できる(国道191号と近接するため、同時被災が懸念)	△ 別線バイパス整備で代替路が確保できる(国道191号と近接するため、同時被災が懸念)	○ 別線バイパス整備で代替路が確保できる
	②	安全性・走行性の向上	○ 別線バイパス整備で死傷事故率が全国平均を上回る箇所を回避	○ 別線バイパス整備で死傷事故率が全国平均を上回る箇所を回避	○ 別線バイパス整備で死傷事故率が全国平均を上回る箇所を回避
	③	産業の活性化	△ 石見臨空ファクトリーパークへの速達性の向上は見込まれない	△ 石見臨空ファクトリーパークへの速達性の向上が見込まれる(萩市方面から短縮無、益田市方面から約1分短縮)	○ 石見臨空ファクトリーパークへの速達性の向上が見込まれる(萩市方面から約3分短縮、益田市方面から約6分短縮)
			△ 国営農地への速達性の向上は見込まれない	○ 国営農地への速達性の向上が見込まれる(萩市方面から短縮無、益田市方面から約1分短縮)	○ 国営農地への速達性の向上が見込まれる(萩市方面から短縮無、益田市方面から約2分短縮)
	④	観光振興の促進	○ 萩・石見空港への速達性の向上が見込まれる(萩市方面から約6分短縮)	○ 萩・石見空港への速達性の向上が見込まれる(萩市方面から約2分短縮)	○ 萩・石見空港への速達性の向上が見込まれる(萩市方面から約1分短縮)
			△ 萩・石見空港への速達性の向上は見込まれない(津和野町方面から短縮無)	△ 萩・石見空港への速達性の向上は見込まれない(津和野町方面から短縮無)	○ 萩・石見空港への速達性の向上が見込まれる(津和野町方面から約1分短縮)
			○ 益田～萩間の速達性の向上が見込まれる(約2分短縮)	○ 益田～萩間の速達性の向上が見込まれる(約3分短縮)	○ 益田～萩間の速達性の向上が見込まれる(約2分短縮)
	⑤	救急医療機関への速達性、確実性の確保	○ 下田万地区からの速達性の向上が見込まれる(約2分短縮)	○ 下田万地区からの速達性の向上が見込まれる(約2分短縮)	○ 下田万地区からの速達性の向上が見込まれる(約1分短縮)
			△ 中西地区からの速達性の向上は見込まれない	○ 中西地区からの速達性の向上が見込まれる(約2分短縮)	○ 中西地区からの速達性の向上が見込まれる(約2分短縮)
			○ 代替路が確保され確実性が向上する	○ 代替路が確保され確実性が向上する	○ 代替路が確保され確実性が向上する
配慮すべき点	⑥	大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること	○ 市街地を通過する交通がバイパスに転換するため、現道の沿道環境は改善が見込まれる	○ 市街地を通過する交通がバイパスに転換するため、現道の沿道環境は改善が見込まれる	○ 市街地を通過する交通がバイパスに転換するため、現道の沿道環境は改善が見込まれる
	⑦	自然環境への影響が少ないこと	△ 地形変化が最も多く、また橋梁が多いため自然環境との調和に課題がある	△ 地形変化が多く、また橋梁が最も多いため自然環境との調和に課題がある	○ 地形変化が最も少なく、また橋梁が最も少ないため自然環境との調和の課題は少ない
	⑧	移転などが必要な家屋が少ないこと	○ 家屋への影響は小さい(7件)	○ 家屋への影響は小さい(6件)	○ 家屋への影響は小さい(6件)
	⑨	生活への影響	○ 小浜地区の連絡性に優れる(小浜ICまで約1分)	○ 小浜地区の連絡性に優れる(小浜ICまで約1分)	○ 小浜地区の連絡性に優れる(小浜ICまで約1分)
			△ 中西地区の連絡性に劣る(小浜ICまで約6分)	△ 中西地区の連絡性に劣る(中間ICまで約4分)	○ 中西地区の連絡性に優れる(中間ICまで約2分)
	⑩	工事の影響	△ 空港アクセス道路の通行止め規制が必要 萩・石見空港の空港施設への配慮が必要	○ 現道での工事が少なく、現道の交通規制も少ない	○ 現道での工事が少なく、現道の交通規制も少ない
	⑪	経済性への配慮	○ 約270～320億円	△ 約340～390億円	△ 約290～340億円
	⑫	維持管理への配慮	△ 増加する管理延長は最も短い。 構造物(橋梁)延長は長い。	△ 増加する管理延長は長い。 構造物(橋梁)延長は最も長い。	△ 増加する管理延長は最も長い。 構造物(橋梁)延長は最も短い。

2.3. 対応方針（案）の検討
3）ルート帯（原案）



【計画ルートの考え方】

国道191号の災害や事故などの現道課題を回避し、産業拠点・観光拠点のアクセスを考慮した、現道とは違う特性をもつ道路ネットワークとなるルート

2.4. 自治体への意見照会結果

2.4. 自治体への意見照会結果
1) 自治体への意見照会 [対応方針（案）に対する意見]

島根県

意見

島根県は、山陰道（須子～小浜）〔以下、当該道路〕における対応方針（原案）について同意します。

島根県では、希望と活力に満ちた新時代「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指して島根創生に取り組んでおり、その基盤となる山陰道の早期全線開通は県民の悲願です。

島根県としては、地元益田市と連携して事業の円滑な推進に向けた環境整備に取り組むとともに、当該道路のストック効果を最大限に発現させるため、山陰道へのアクセス道路についても必要な対策を行ってまいります。

つきましては、当該道路の一日も早い事業化をお願いします。



高推第 45 号
令和元年 12 月 3 日

国土交通省
中国地方整備局長 水谷 誠 様

島根県知事 丸 山 達 也
(土木部高速道路推進課)



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

平素から島根県の道路行政の推進につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

令和元年 12 月 2 日付け国中整道計第 16 号で照会のあったこのことについては、下記のとおりです。

記

島根県は、山陰道（須子～小浜）〔以下、当該道路〕における対応方針（原案）について同意します。

島根県では、希望と活力に満ちた新時代「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指して島根創生に取り組んでおり、その基盤となる山陰道の早期全線開通は県民の悲願です。

島根県としては、地元益田市と連携して事業の円滑な推進に向けた環境整備に取り組むとともに、当該道路のストック効果を最大限に発現させるため、山陰道へのアクセス道路についても必要な対策を行ってまいります。
つきましては、当該道路の一日も早い事業化をお願いします。

2. 5. 対応方針（案）のまとめ

2.5. 対応方針（案）のまとめ

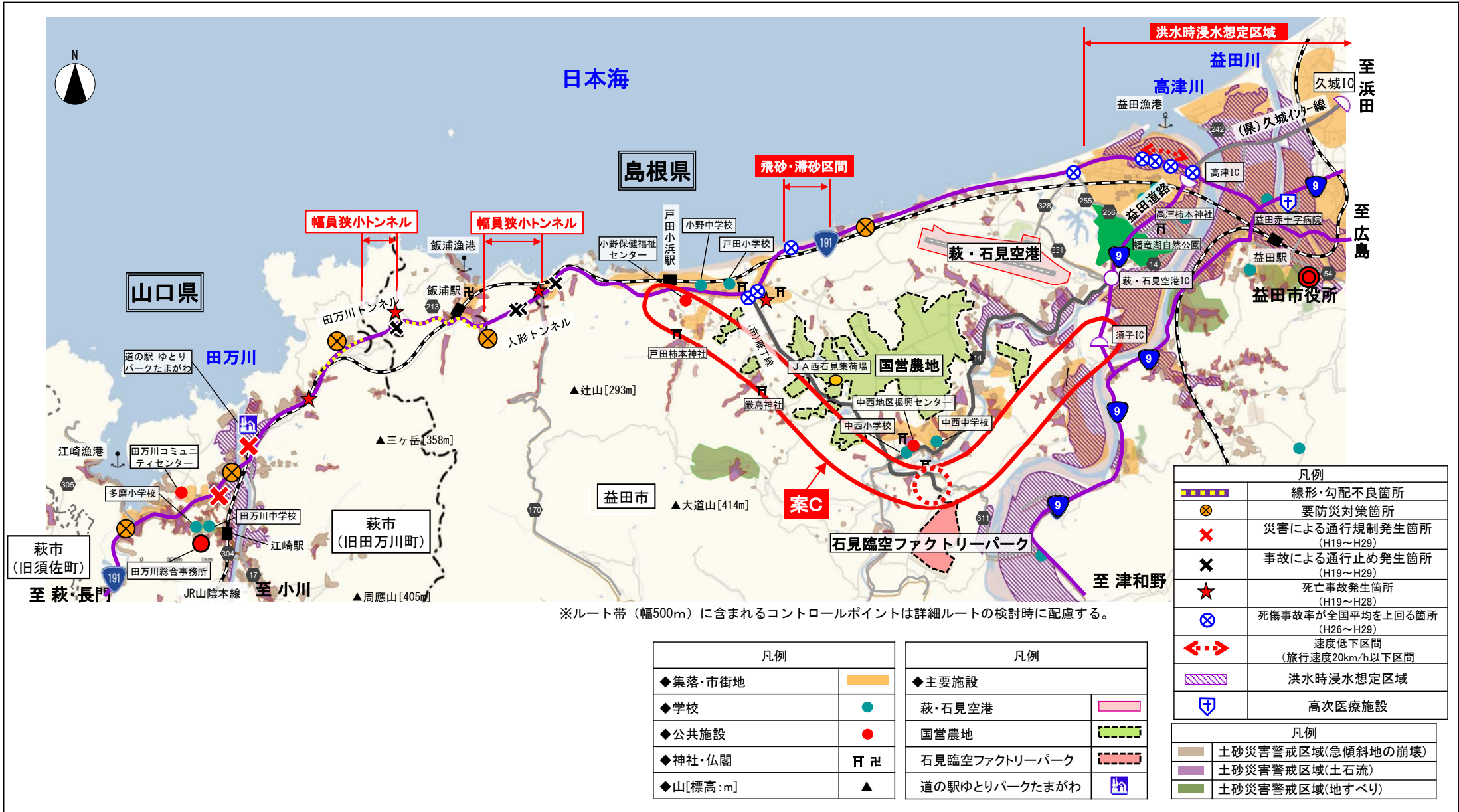
1) 対応方針（案）

1.道路整備の必要性	
【理由】 政策目標を達成できる道路整備を検討 【政策目標】 ○ 災害等による通行止め時に機能するネットワークの確保 ○ 安全性・走行性の向上 ○ 産業の活性化 ○ 観光振興の促進 ○ 救急医療機関への速達性、確実性の向上	○ 評価区間には、益田市街地や観光拠点（萩・石見空港）、主要な産業拠点（石見臨空ファクトリーパーク、国営農地）等が集中しており、各拠点へのアクセス向上や速達性向上が課題となっている。 ○ 国道191号では、事故や災害発生時による代替性の確保が課題となっている。 ○ 住民、事業所、道路利用者及び自治体などからは安全で災害時に強い道路や、救急医療機関への速達性等が望まれている。
2.対応方針(案)	
ルート帯について【案C：産業拠点へのアクセスを優先したバイパス案】を対策方針（案）とする。 【理由】 ○ 【案C】は、【案A】【案B】に比べ、全ての政策目標の達成が見込まれる。 ○ 意見聴取結果においては、産業拠点への速達性の向上等の「道路整備による効果・改善点」の各項目や「配慮すべき項目」について多くの意見が寄せられており、【案C】は地域のニーズにも応えられる。 ○ また、地域発展のためには企業進出や雇用確保などが不可欠であり、【案C】により企業進出・雇用が期待されるとともに、安心安全、観光活性化についても支援でき、自治体のニーズにも応えられる。 ○ 【案C】は全ての政策目標の達成が見込め、災害等発生時の代替路の確保やアクセス性、速達性や信頼性・安全性の高い道路ネットワークを確保できるなど、総合的に優れている。	
3.その他	
・ 具体的な道路構造等の検討に際し、景観への影響、自然環境への影響、家屋の移転、工事中の影響、事業費・維持管理費のコスト縮減等にも配慮する。 ・ また、バイパス整備後に現道に残存する課題について地元自治体と一体となって、交通状況の変化等を勘案しながら必要な対応に努める。	

6. 対応方針（案）のまとめ

1) 対応方針（案）

4.ルート帯



3. 「小浜～田万川間」の検討

3. 1. 対応方針（原案）の再検討

3. 1. 対応方針（原案）の再検討

1）対応方針（原案）の再検討

○前回現道対策として提案したが、小委員会でのご意見、平成30年7月豪雨災害、意見聴取を踏まえ、バイパス案を含め再検討。

■第3回小委員会での意見(H30.11)

主な意見

・現道対策も必要だが、頑健なネットワークとして、山陰道の構築も必要。**小浜～田万川間について、バイパス案を加えた評価を今後検討し、意見聴取すべき。**

■平成30年7月豪雨(H30.7)



出典：第66回社会資本整備審議会基本政策部会資料より



○山陽道の通行止めにより、山陰側が重要な**代替路として機能**
○一方、山陰道未整備区間では、交通量の増加により**渋滞が発生した**

■第2回意見聴取概要(H31.3～R元.6)

第2回意見聴取：須子～小浜間に関するルート帯に関して重視すべき事項について意見聴取を実施。その際、小浜～田万川に関する自由意見も聴取。

主な意見

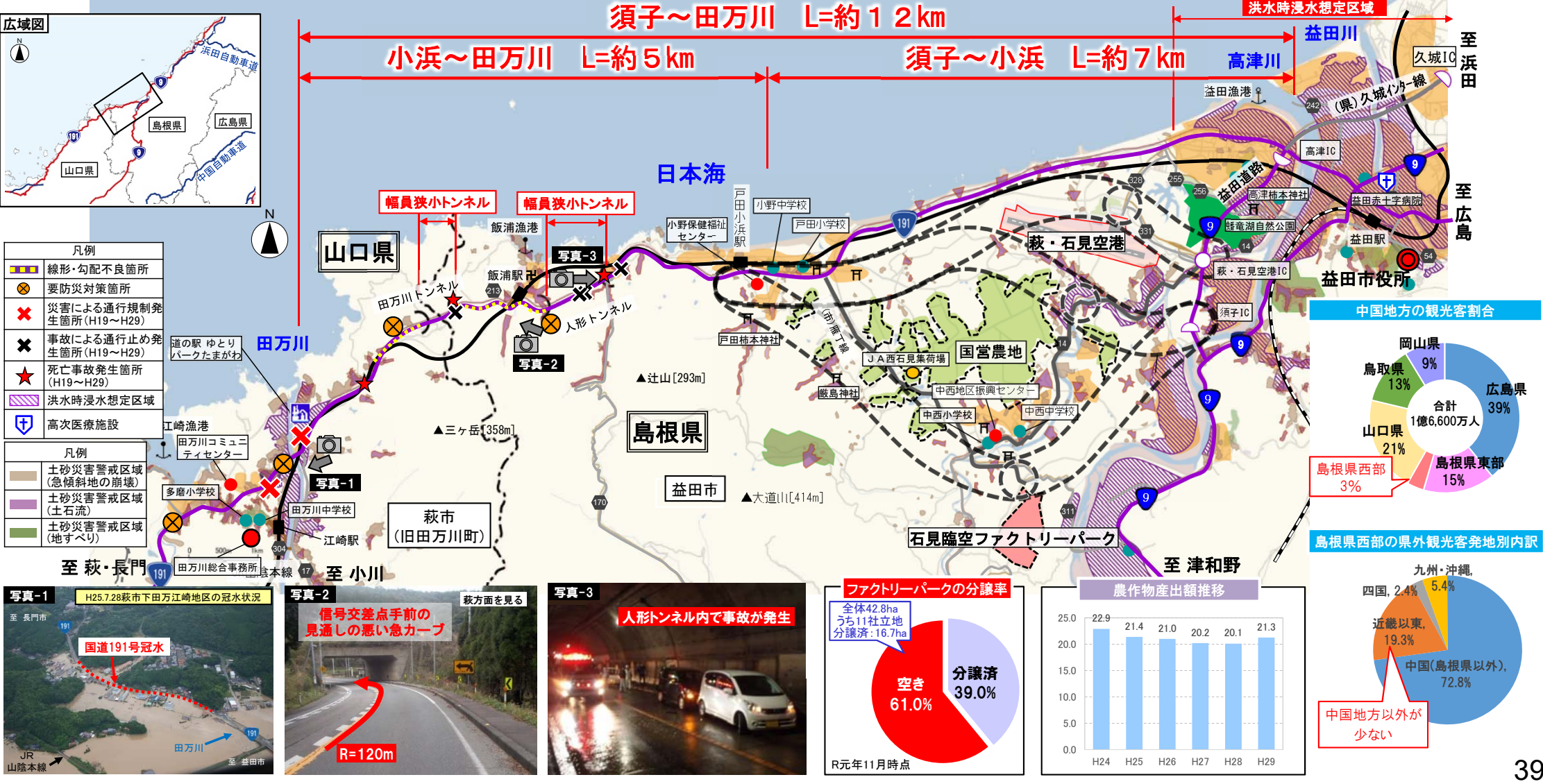
- ・小浜～田万川間は、**土砂災害の危険性もあるため、代替路の確保**が必要である。【益田市】
- ・**代替路の問題は、須子～小浜間だけではなく小浜以西についても同様である**。早急に当該区間の整備も進めてほしい。益田側から山口方面への緊急出動・応援のためにも重要。【消防】
- ・人形トンネルは幅員が**狭く自転車・バイクの通行もあり危険**である。そもそも道路の構造も良くないので、**別線での整備**をして欲しい。【益田市】
- ・小浜～田万川間は人形トンネル等の幅も狭く、カーブ等もあり大型の車両で運行しにくい。**事故による通行止めの経験**を踏まえると、**別線**として整備してほしい。【バス事業者】
- ・空港を拠点とした観光活性化に向けて、小浜～田万川間についても**現道改良だけでは速達性という観点や代替路の確保という点で問題がある**と思う。**バイパス整備を望む**。【萩市】
- ・須子～田万川間における山陰道の整備は現道改良ではなく**バイパス整備を望む**。ただし、道の駅ゆとりパークたまがわや須佐駅にあるいかマルシェはこの地域の経済面で重要な拠点となっていることから、ICからのアクセス距離が遠すぎると立ち寄り客が期待できず困る。できれば、ICから道の駅へは1km程度として欲しい。【商工会】

⇒小浜～田万川間においても、別線バイパスを求める意見が多いことから、別線バイパス案を含め検討を実施 38

3. 1. 対応方針（原案）の再検討

2）地域課題（再整理）

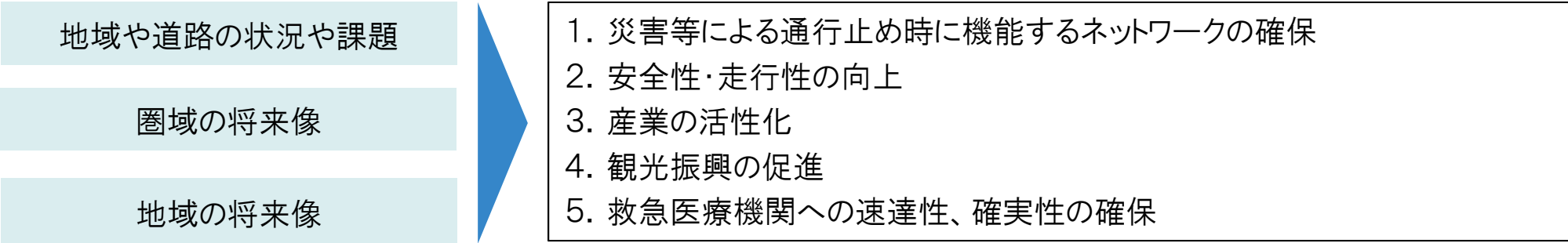
目 政 策	通行止め時に機能するネットワークの確保	安全性・走行性の向上	産業の活性化	観光振興の促進	救急医療機関への速達性、確実性の確保
地域・道路	- 要防災対策箇所、土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域が点在。 - 昭和58年災害、平成25年災害では、崩落や浸水による長時間の通行止めが発生。 - 須佐及び田万川から益田市方面へは、通勤等、生活圏内であり結びつきが強い。通行止め発生時には、大幅な迂回を強いられ市民生活及び企業活動に支障。	- 小浜～田万川間で、道路構造の不良箇所、幅員狭小トンネルが点在。 - 小浜～田万川間で、道路構造不良区間及びトンネル内で死亡事故が発生。	- 益田市の特産農作物の販路拡大が進んでいない。 - 石見臨空ファクトリーパークの分譲率は39%と企業立地が進んでいない。 - アクセス道路の確実性、走行性、速達性の低さが、企業立地や事業拡大及び販路拡大の支障。 - 道の駅「ゆとりパークたまがわ」は、地域活性化の拠点として位置づけられているが交流人口が少ないことが課題。	- 島根県西部地域の観光入込客数は少なく、観光ツアーも空白地となっている。 - 萩市を訪れる九州や関東等の観光客が、島根県西部地域まで周遊を行わない。 - 観光地間の移動時間の長さや、空港へのアクセスのしにくさが、観光ツアー設定や、個人旅行者の周遊観光の支障。	- 萩市の須佐地区、田万川地区及び阿武町には救急搬送に30分以上を要する高次救急医療の空白地あり。 - 通行規制時の迂回や急カーブ等による患者への負担増加。



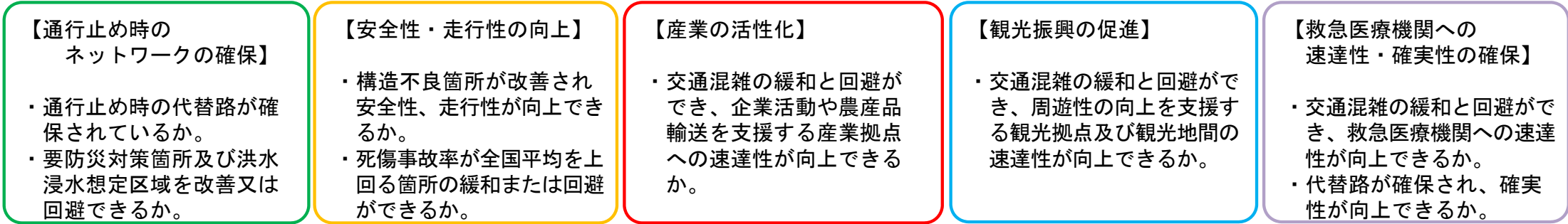
3. 1. 対応方針（原案）の再検討
3）政策目標（※再掲）

■政策目標の設定

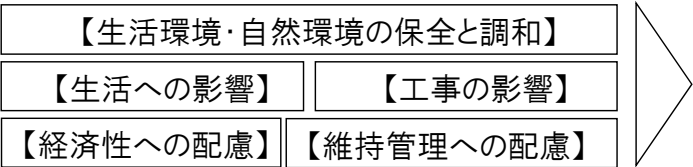
■地域の課題や自治体の総合計画を踏まえ、5つの政策目標を設定しこれらの目標を達成するための対策案を検討。



■対策案の検討



○対策案を検討する上でのその他の配慮事項



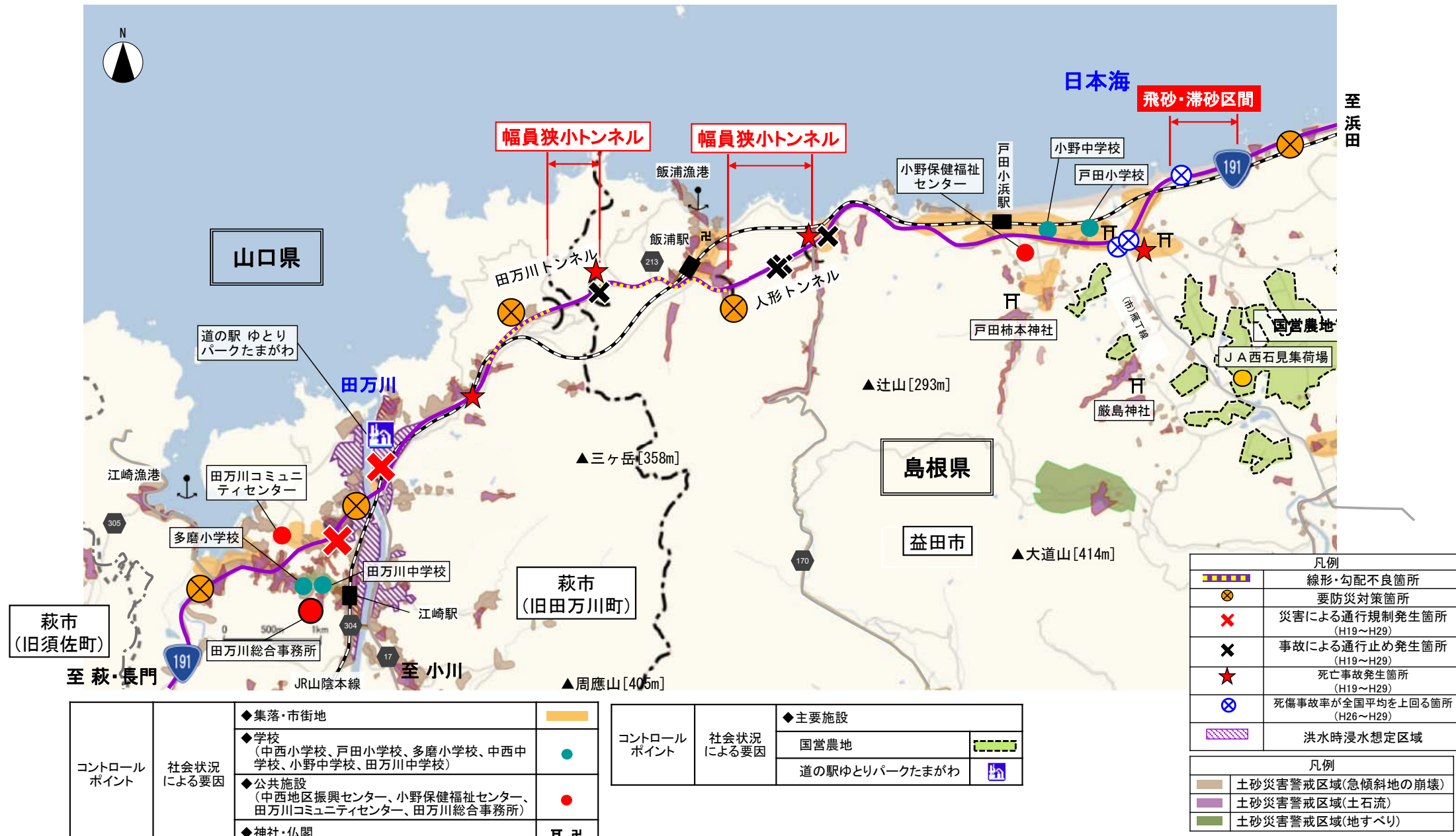
現道対策案と別線バイパス案含め、整備方針を検討
（既存の道路ストックの活用も含め、複数の対策案を設定し検討）

3. 2. 対応方針（原案）の検討

3. 2. 対応方針（原案）の検討

1) コントロールポイントの考え方

○ルート帯を検討するうえでの主なコントロールポイントとして、社会的状況、自然的状況等に配慮。



※コントロールポイントとは、社会的影響が大きく回避するのが望ましい建物等やアクセス性を考慮する主要施設等

3. 2. 対応方針（原案）の検討
2）複数案の設定（ルート帯案）の概要



- ○ ○ ○ : 【案A】現道の線形不良区間の解消及び要防災対策箇所の対策を行う案
- ○ ○ ○ : 【案B】構造不良箇所の連続区間をショートバイパスで回避し、その他区間を現道拡幅する案
- ○ ○ ○ : 【案C】小浜～田万川間を別線バイパスで結んだ案

3) ルート帯案の概要【案A】

○現道の線形不良区間の解消及び要防災対策箇所の対策を行う案



■整備概要

■ポイント

※ルート帯とは今後具体的にルートを計画する範囲のことで約500m幅で示しています。
※ルート帯に含まれるコントロールポイントは詳細ルートの検討時に配慮します。

延 長	約 0.7 km (現道改良延長)
コスト	約 10～60 億円

内 容

- ・構造不良箇所（急カーブ）の改良を実施
- ・構造不良箇所（急勾配、幅員狭小トンネル）は解消出来ない
- ・要防災対策箇所への対策工を実施
- ・局所的な対策であるため、短期間で効果を発現
- ・小浜～田万川間の代替路は確保出来ない
- ・小浜～田万川間の速達性は現況と変わらない
- ・「道の駅」ゆとりパークたまがわへのアクセス性は現状と変わらない

3. 2. 対応方針（原案）の検討

3）ルート帯案の概要【案B】

○構造不良箇所の連続区間をショートバイパスで回避し、その他区間を現道拡幅する案



整備概要

延長	約7.5km (BP: 4.5km、 現道改良: 3.0km)
コスト	約210～260億円

ポイント

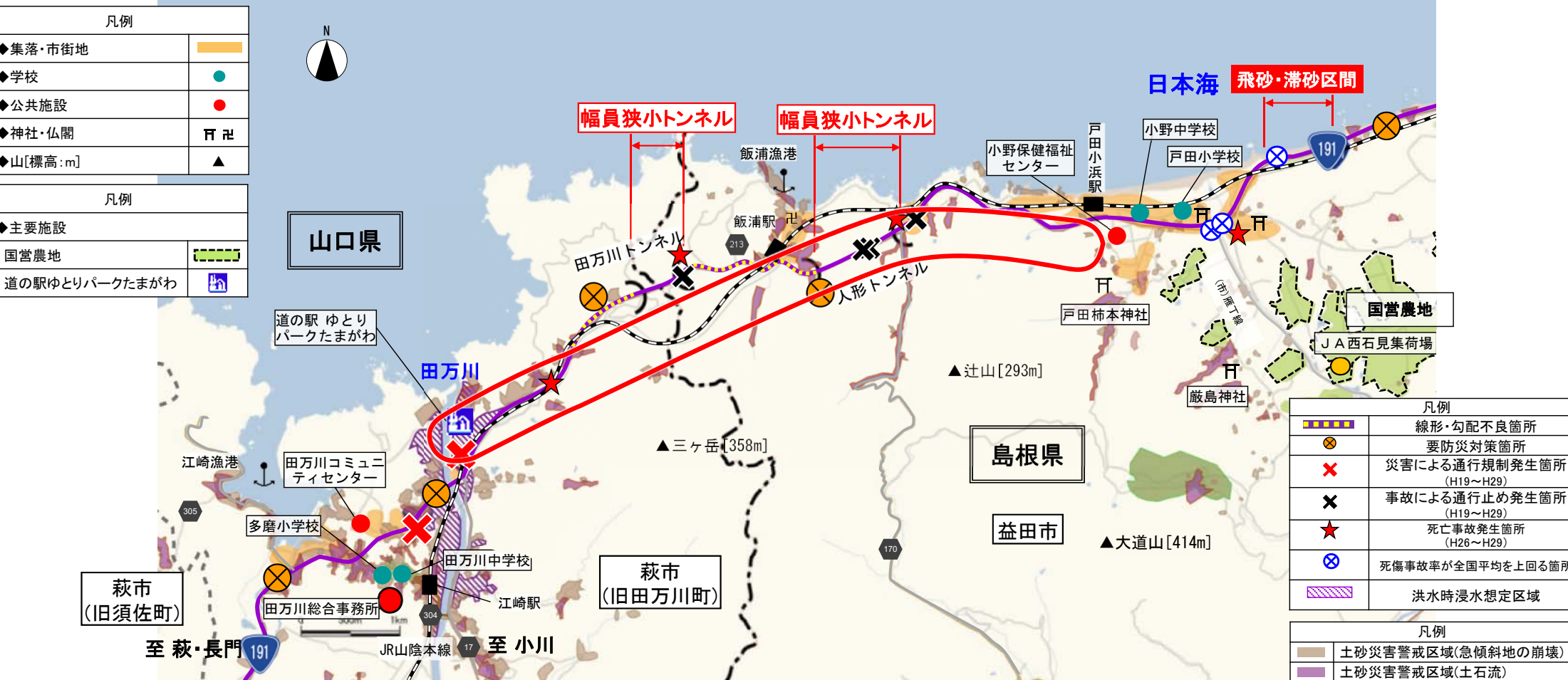
内容	・構造不良箇所（急勾配・急カーブ・幅員狭小トンネル）の連続区間をショートバイパス（第3種道路）で回避し、他の区間は現道拡幅を実施 ・現道拡幅区間において一般の交通に配慮しながらの工事となるため、工事が長期間に及ぶ（効果発現に時間を要する） ・小浜～田万川間全線の代替路は確保出来ない ・小浜～田万川間の速達性はやや向上する ・「道の駅」ゆとりパークたまがわへのアクセス性は現状と同程度
----	--

※ルート帯とは今後具体的にルートを計画する範囲のことで約500m幅で示しています。
※ルート帯に含まれるコントロールポイントは詳細ルートの検討時に配慮します。

3. 2. 対応方針（原案）の検討

4）ルート帯案の概要【案C】

○小浜～田万川間を別線バイパスで結んだ案



整備概要

延長	約6.9km
コスト	約320～370億円

ポイント

内容	・小浜～田万川間を別線バイパス（自動車専用道路）で最短で結ぶ ・小浜～田万川間の代替路は確保される ・全線別線バイパスであり工事の規模が大きいいため、工事が長期間に及ぶ（効果発現に時間を要する） ・小浜～田万川間の速達性が向上する ・「道の駅」ゆとりパークたまがわへのアクセス性が向上する
----	--

※ルート帯とは今後具体的にルートを計画する範囲のことで約500m幅で示しています。
※ルート帯に含まれるコントロールポイントは詳細ルートの検討時に配慮します。

3.2. 対応方針（原案）の検討

5）ルート帯案の評価

評価の項目		評価指標	案A	案B	案C
			現道の線形不良区間の解消 及び要防災対策箇所の対策を行う案	構造不良箇所の連続区間をショートバイパスで回避し、 その他区間を現道拡幅する案	小浜～田万川間を別線バイパスで結んだ案
			延長 約0.7km（現道改良延長）	延長 約7.5km（新設BP：4.5km、現道拡幅3.0km）	延長 約6.9km（新設BP：6.9km）
「政策目標」に対する評価	通行止め時のネットワークの確保	通行止め時の代替路の確保	・現道を改良するため、小浜～田万川間の代替路は確保されない	・ショートバイパスは一部区間であり、小浜～田万川間全線の代替路は確保されない	・別線バイパスを整備するため、小浜～田万川間の代替路が確保できる
	安全性・走行性の向上	線形・勾配不良箇所の改善または回避	・線形不良区間を解消する一部区間において交通の安全性が向上するが、勾配不良区間及び幅員狭小トンネルは解消されない	・ショートバイパスによる構造不良区間を回避、及び現道改良により、交通の安全性が向上する	・自専道ネットワークにより道路構造不良区間を回避するため、交通の安全性が向上する
	産業の活性化	主要な産業拠点までの速達性（田万川地区～産業拠点）	・線形不良区間の解消であるため、速達性の向上は見込まれない （現況と比べ時間短縮はほぼ見込まれない）	・一部区間をショートバイパスにより整備するため、速達性の向上が見込まれる （現況と比べ約1分短縮）	・自専道ネットワークを形成するため、速達性の向上が見込まれる （現況と比べ約3分短縮）
	観光振興の促進	観光地間（益田～萩間）の速達性（萩市～益田市）	・線形不良区間の解消であるため、速達性の向上は見込まれない （現況と比べ時間短縮はほぼ見込まれない）	・一部区間をショートバイパスにより整備するため、速達性の向上が見込まれる （現況と比べ約1分短縮）	・自専道ネットワークを形成するため、速達性の向上が見込まれる （現況と比べ約3分短縮）
	救急医療機関への速達性、確実性の向上	第二次救急医療機関までの速達性・確実性（田万川地区～益田赤十字病院）	・線形不良区間の解消であるため、搬送時間の短縮は見込まれない（現況と比べ時間短縮は見込まれない） ・代替路が確保されないため、救急搬送の確実性の向上は見込まれない	・一部区間をショートバイパスにより整備するため、搬送時間の短縮が見込まれる（現況と比べ約1分短縮） ・代替路が確保されないため、救急搬送の確実性の向上は見込まれない	・自専道ネットワークを形成するため、搬送時間の短縮が見込まれる（現況と比べ約3分短縮） ・代替路が確保されるため、救急搬送の確実性に優れる
配慮すべき事項	生活環境	大気質や騒音等	・現道を改良するため、現道の沿道環境は改善が見込まれない	・ショートバイパス区間においては交通がバイパスに転換し、沿道環境の改善が見込まれるが、現道改良区間については改善が見込まれない	・交通がバイパスに転換することで、現道の沿道環境は改善が見込まれる
	自然環境	自然環境への影響	・地形改変が少なく、また橋梁がないため自然環境との調和の課題は少ない	・地形改変が多いため、橋梁が少ないが自然環境との調和に課題がある	・地形改変が最も多く、また橋梁が多いため自然環境との調和に課題がある
	生活への影響	移転などが必要な家屋数	・家屋移転はない	・家屋への影響は小さい（8件）	・家屋への影響は小さい（6件）
		集落との連絡性	・現道を改良するため、田万川地区から最寄りのIC（小浜IC）への連絡性向上は見込まれない	・ショートバイパスでの整備であり、自専道ネットワークが繋がらないため、田万川地区から最寄りのIC（小浜IC）への連絡性向上は見込まれない	・高速道路のインターチェンジが設置されるため、田万川地区の連絡性が向上する
	工事の影響	現道交通等への影響	・現道での工事が発生するため、交通規制が多い	・現道での工事が発生するため、交通規制が多い	・現道での工事が少なく、交通規制が少ない
	経済性・早期整備への配慮	建設に要する費用	約10～60億円	約210～260億円	約320～370億円
		効果発現の期間	・局所的な対策であるため、短期間で効果を発現	・一般の交通に配慮を行いながらの工事となるため、工事が長期間に及ぶ	・全線別線バイパスであり工事の規模が最も大きいため、工事が長期間に及ぶ
	維持管理への配慮	維持管理に要する費用	・現道を改良するため、管理延長や構造物延長は増加しない	・一部区間の道路をショートバイパスとして新設するため、管理延長や構造物延長はやや増加する	・バイパスとして道路を新設するため、増加する管理延長や構造物延長が最も増加する

3. 3. 第3回意見聴取方法

3.3. 第3回意見聴取方法

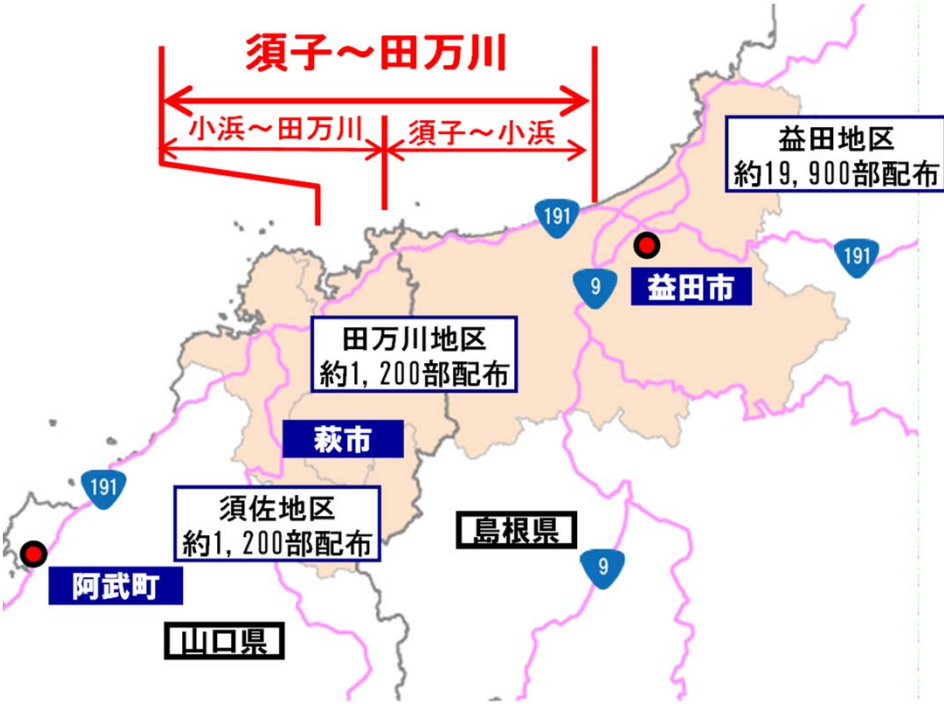
1) 意見聴取の概要

■意見聴取の項目

- 実施主体：国土交通省
- 周知方法：記者発表、ポスター掲示、市広報誌、新聞広告、ケーブルテレビHPの活用
- 配布方法：①住民は全戸配布、企業は郵送配布
②上記以外は市町役場や道の駅等へのアンケート用紙の設置
③HP上でのWEBアンケート
- 回収方法：①郵便ポスト
②市町役場や道の駅等への投函ボックスの設置
③HP上での回答
- 期 間：概ね1ヶ月程度
対 象：下表の通り

住民アンケート(全戸配布・郵送): 約22,300世帯		
益田市	旧益田市	約19,900世帯
萩市	旧田万川町	約2,400世帯
	旧須佐町	
事務所アンケート(郵送): 約1,900社		
住民アンケート全戸配布エリアに本店・支店・営業所のある企業		約1,900社
道路利用者アンケート(郵送): 39箇所		
常設	道の駅、官公庁等	39箇所
道路利用者アンケート(ヒアリング): 道の駅14箇所、観光地5箇所		
道の駅	ゆうひパーク浜田、ゆうひパーク三隅、サンエイト美都、シルクウェイにちはら、津和野温泉なごみの里、匹見峡、阿武町、萩往還、あさひ、ゆとりパークたまがわ、ハピネスふくえ、萩しーまーと、うり坊の郷katamata、萩・さんさん三見	
観光地	萩・石見空港、万葉公園、グラントワ、太鼓谷稲荷神社、松陰神社	
道路利用者アンケート(WEB)		
浜田河川国道事務所のHPIにWEBアンケートを掲載		
ヒアリング: 54団体・観光地5箇所(島根県、山口県、益田市、萩市、阿武町)		
自治体		
警察署・消防署・病院(2次医療施設)		
農協		
漁協		
森林組合		
商工会議所		
観光協会		
地元企業(農業・畜産業・林業・観光業)		
工業団地(石見臨空ファクトリーパーク)		
ドライバー(運送会社・バス会社)		
地域外企業		

＜アンケート配布範囲＞ ※配布数は地域住民アンケート



3.3. 第3回意見聴取方法

2) 各手法の調査項目と活用方針

■意見聴取の方法・目的

把握する意見	アンケート	ヒアリング	備考
小浜～田万川間の国道191号の交通課題	高規格幹線道路 山陰道の未整備区間及び並行する国道191号の現状について、回答者の考える課題を把握する。	アンケートでは把握できない具体的な交通課題について把握する。	第1回
将来を見据えた改善すべき地域課題	将来（10～20年後）を見据えた改善すべき地域の課題について、回答者の考えを把握する。	アンケートでは把握できない具体的な将来（10～20年後）を見据えた改善すべき地域の課題について把握する。	
山陰道が利用しやすい道路となるためのアイデアや、山陰道を整備する上での配慮事項	山陰道に求める機能や役割について、回答者の考えを把握する。	アンケートでは把握できない具体的な山陰道に求める機能や役割について把握する。	
その他自由意見	その他、道路に関する課題や意見を幅広く聴取する。		
須子～小浜間の比較ルート帯案（複数案）に対する意見	ルート帯選定にあたり、回答者が重要視する道路整備効果、配慮事項を把握する。	ルート帯について、アンケートでは把握できない具体的な道路整備効果、配慮事項について把握する。	第2回
その他自由意見	その他、広域的な視点で道路整備をすることによる懸念事項、配慮事項に関して把握する		
小浜～田万川間の比較ルート帯案（複数案）に対する意見	ルート帯選定にあたり、回答者が重要視する道路整備効果、配慮事項を把握する。	ルート帯について、アンケートでは把握できない具体的な道路整備効果、配慮事項について把握する。	第3回
その他自由意見	その他、道路整備（小浜～田万川）に関する意見を幅広く聴取する。		
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分類で整理し、分析する。	—	共通

3.3. 第3回意見聴取方法

3) アンケート案 (計画概要及び現状)

■計画概要

①調査概要

○本調査の主旨、調査対象箇所について説明。

すこ たまがわ
計画検討に関する第3回アンケート・山陰道(須子～田万川)

山陰道(須子～田万川)の計画に向けて ～「小浜～田万川」間の対策案について、みなさまのご意見をお聴かせください～

山陰道は、鳥取県鳥取市から島根県を經由し山口県下関市に至る総延長約380kmの高規格幹線道路※であり、山陰地方の地域経済の活性化、観光の振興、災害に強い道路ネットワークの確保を主な目的として整備を進めています。

平成28年11月～12月に実施した第1回アンケートでは、約7,800件の回答を頂き、平成31年3月～令和元年5月に実施した第2回アンケートでは、約6,500件の回答を頂きました。
ご協力ありがとうございました。

今回のアンケートは、須子～田万川間のうち、小浜～田万川間の対応方針案を検討する際に配慮すべき(重要)と思う事項等について、ご意見を伺うものです。

前回に引き続き、本調査にご協力いただきますようお願いいたします。



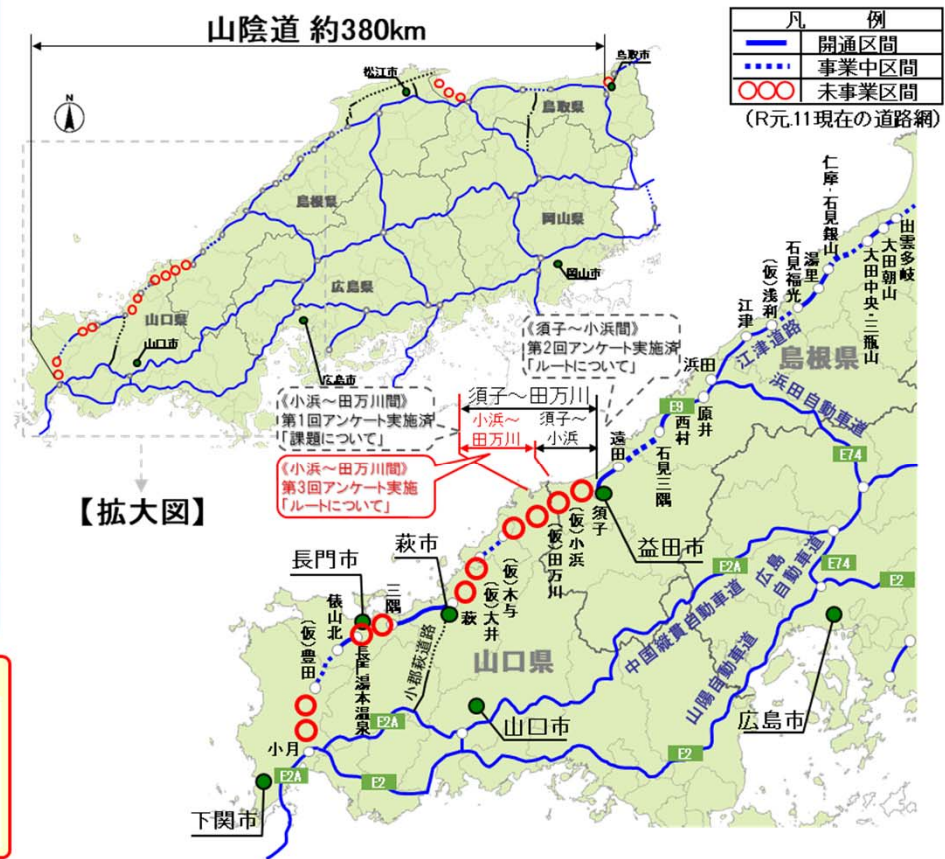
※高規格幹線道路とは、全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路のことです。

今回の小浜～田万川間のアンケートへの回答は、QRコードからでも可能です。
また、地域や道路・交通の状況と課題についても、国土交通省ホームページでご覧になれます。

国土交通省ホームページ
<http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/sanindo/>

QRコード
仮

■ 今回のアンケートの対象は、「小浜～田万川」間です。



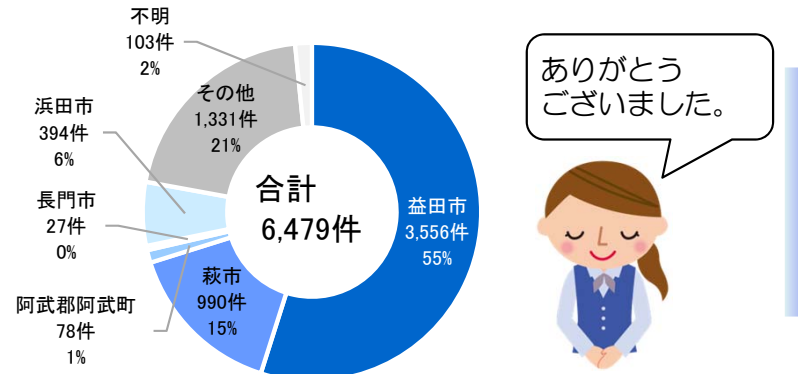
3.3. 第3回意見聴取方法

3) アンケート案（意見聴取の経緯）

○前回の意見聴取の概要や経緯、今回のアンケートについて説明。

須子～小浜間の対策案について(第2回アンケート)

平成31年3月～令和元年6月の意見聴取では須子～小浜間の対策案について重要と思われる項目について意見を聴取させていただき、約6,500件のご意見をいただきました。



ありがとうございました。



皆さまのご意見を踏まえ、須子～小浜間の対応方針案を決定しました。

様々なご意見を頂きました

対策案について重要と思われる項目		全体 (回答者数: 6,124人)
道路整備による効果・改善点	1 通行止め時の代替路が確保できること。	35%
	2 交通の安全性が向上できること。	30%
	3 主要な産業拠点(石見臨空ファクトリーパーク・国営農地)への到達性が向上できること。	34%
	4 観光拠点(萩・石見空港)及び観光地間(益田～萩間)の到達性が向上できること。	37%
	5 救急医療機関へ早く、確実に輸送できること。	31%
配慮すべき点	6 大気質騒音等の生活環境への影響が改善すること。	4%
	7 自然環境への影響が小さいこと。	11%
	8 移転等が必要な家屋が少ないこと。	6%
	9 集落との連絡性に優れること。	7%
	10 工事中の交通規制等が少ないこと。	8%
	11 建設に要する費用が少ないこと。	15%
	12 維持管理に要する費用が少ないこと。	12%
	13 その他	4%

※当該質問に回答した人のみ集計しているため、全回答数6,479と一致しない

主なご意見

- ・ 現道191号に近接する海側ではなく**山側からアクセスする道路が必要**
- ・ 人口減少の歯止めとして企業誘致が必要で**工業団地に利便性のある道路が必要**
- ・ **山陰道が九州に繋がることで、地域の産業構造に新たな展望が開ける**
- ・ 津和野・萩を含めた広域的な人の**交流を拡大する道路が必要**
- ・ **早期開通が最優先**と考えると少しでも**費用が少ないことが重要**

小浜～田万川間について(今回アンケート)

○当該区間の整備にあたり、中国地方小委員会で「バイパス案を加えた評価を今後検討し、意見聴取すべき」という意見を頂きました。

○平成30年7月豪雨災害では、山陰道が代替路として使われ、ネットワークとしての重要性が認識されました。

○須子～小浜間の意見聴取でも、当該区間の別線整備を求める意見を頂いております。



出雲IC付近の国道9号の混雑状況 (H30.7.8)

- 現道対策案や別線整備案などの、**3つのルート帯案(対応方針案)**を再検討いたしました。
- この3つの対応方針案について、**重要と思われる項目についてご意見をお聞かせください。**



皆さまからのご意見を踏まえ、須子～小浜間は、「案〇:〇〇を優先したバイパス案」を対応方針として決定しました。〇〇の促進といった効果が期待できるルートです。

須子～小浜において多くのご意見、ありがとうございました。引き続き小浜～田万川に関しても多くのご意見をお待ちしております。

3.3. 第3回意見聴取方法

3) アンケート案（政策目標の設定）

○第1回意見聴取を踏まえて設定した政策目標について説明。

皆様からいただいたご意見を踏まえて5つの政策目標※を設定しています。

※政策目標とは・・・政策(対策)の実施により、実現しようとする目標

通行止め時の
ネットワークの確保



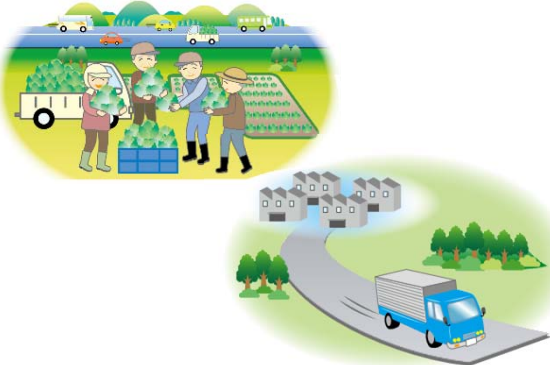
- ・通行止め時に代替路が確保できること。
- ・要防災対策箇所及び洪水浸水想定区域を改善又は回避し災害時でも確実に通行できること。

安全性・走行性の向上



- ・構造不良箇所が改善され安全性、走行性が向上できること。
- ・死傷事故率が全国平均を上回る箇所を改善または回避し安全性が向上できること。

産業の活性化



- ・交通混雑を緩和と回避ができ、企業活動や農産品輸送を支援する速達性が向上できること。

観光振興の促進



- ・交通混雑を緩和と回避ができ、観光地間の周遊を支援する速達性が向上できること。

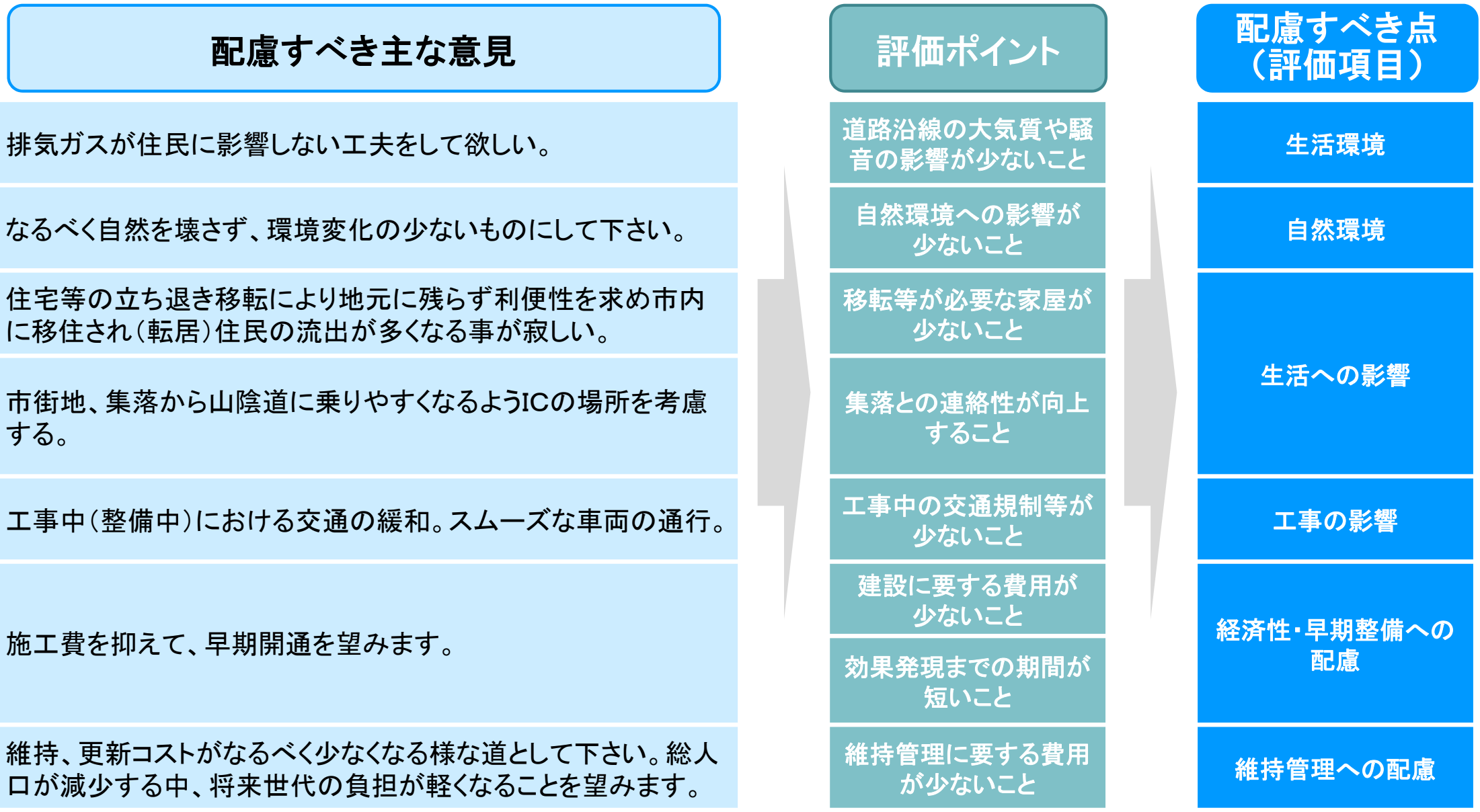
救急医療機関への速達性、
確実性の確保



- ・交通混雑を緩和と回避ができ、救急医療機関への速達性が向上できること。
- ・代替路が確保され、救急医療機関への搬送の確実性が向上できること。

3.3. 第3回意見聴取方法
3) アンケート案（配慮すべき点）

○第1回アンケート意見より、ルート帯案の評価項目を設定したことを説明。



3.3. 第3回意見聴取方法

3) アンケート案（対策案の概要）

○各対策案の概要と各評価項目における整備効果を図と比較表を用いて説明。



- ○ ○ ○ :【案A】現道の線形不良区間の解消及び要防災対策箇所の対策を行う案
- ○ ○ ○ :【案B】構造不良箇所の連続区間をショートバイパスで回避し、その他区間を現道拡幅する案
- ○ ○ ○ :【案C】小浜～田万川間を別線バイパスで結んだ案

3.3. 第3回意見聴取方法

3) アンケート案（対策案の評価項目）

評価のポイント			案A	案B	案C
			現道の線形不良区間の解消及び 要防災対策箇所の対策を行う案	構造不良箇所の連続区間をショートバイパスで回避し、 その他区間を現道拡幅する案	小浜～田万川間を別線バイパスで結んだ案
			延長 約0.7 km	延長 約7.5 km	延長 約6.9 km
道路整備による効果・改善点	①	通行止め時の代替路が確保できること。	小浜～田万川間の代替路は確保されない	小浜～田万川間全線の代替路は確保されない	小浜～田万川間の代替路が確保できる
	②	交通の安全性が向上できること。	一部区間において交通の安全性が向上する	交通の安全性が向上する	交通の安全性が向上する
	③	主要な産業拠点への速達性が向上 できること。 (田万川地区～産業拠点)	■速達性：現況と変わらない	■速達性：約1分短縮	■速達性：約3分短縮
	④	観光地間(益田～萩間)の速達性が 向上できること。 (萩市～益田市)	■速達性：現況と変わらない	■速達性：約1分短縮	■速達性：約3分短縮
	⑤	救急医療機関へ早く、確実に搬送できる こと。 (田万川地区～益田赤十字病院)	■速達性：現況と変わらない ■確実性：劣る	■速達性：約1分短縮 ■確実性：劣る	■速達性：約3分短縮 ■確実性：優れる
配慮すべき事項	⑥	大気質や騒音等の生活環境への影響が 改善すること。	現道活用のため、現道の沿道環境は改善が 見込まれない	ショートバイパス区間については沿道環境の改善は 見込まれるが、現道改良区間については、改善が見 込まれない	交通の転換により、現道の沿道環境は改善が 見込まれる
	⑦	自然環境への影響が小さいこと。	地形改変が少なく、また橋梁がないため自然環境 との調和の課題は少ない	地形改変が多いため、橋梁が少ないが自然環境との 調和に課題がある	地形改変が多く、また橋梁が多いため自然環境との 調和に課題がある
	⑧	移転等が必要な家屋が少ないこと。	家屋移転はない	家屋への影響は小さい（8件）	家屋への影響は小さい（6件）
	⑨	集落との連絡性に優れること。	最寄りのIC（小浜IC）への連絡性向上は見込めない	最寄りのIC（小浜IC）への連絡性向上は見込めない	田万川地区の連絡性に優れる
	⑩	工事中の交通規制等が少ないこと。	現道の交通規制は多い	現道の交通規制は多い	現道の交通規制が少ない
	⑪	建設に要する費用が少ないこと。	約10～60億円	約210～260億円	約320～370億円
	⑫	効果発現までの期間が短いこと。	局所的な対策であるため、短期間で効果を発現	一般交通に配慮を行いながらの工事となるため、 工事が長期間に及ぶ	全線別線バイパスであり、工事が長期間に及ぶ
	⑬	維持管理に要する費用が少ないこと。	維持管理費は増加しない	維持管理費はやや増加するが案Cより少ない	維持管理費は最も増加する

3.3. 第3回意見聴取方法
3) アンケート案（質問事項）

【 回 答 は が き 】

郵便はがき

料金受取人払郵便

697-0034

浜田局 承認

島根県浜田市相生町3973

国土交通省 中国地方整備局 浜田河川国道事務所

調査設計課 行

差出有効期間 20●●年●月●日 (切手不要)

◆あなた自身のことについて【記入または該当する番号に○をつけてください】

住所 〒 県 市・郡 町

性別 ① 男性 ② 女性 年齢 歳代

◆「須子～田万川間の国道191号」(以下「対象路線」)の普段の自動車利用状況について該当する番号に○をつけてください。

Q1. 現在の対象路線を自動車で利用する頻度を教えてください。
① ほぼ毎日 ② 週2～3回程度 ③ 月2～3回程度
→①、②、③を選ばれた方は《下段》の質問へ
④ ほとんど利用しない ⑤ 利用したことがない
→④、⑤を選ばれた方は《裏面》の質問へ

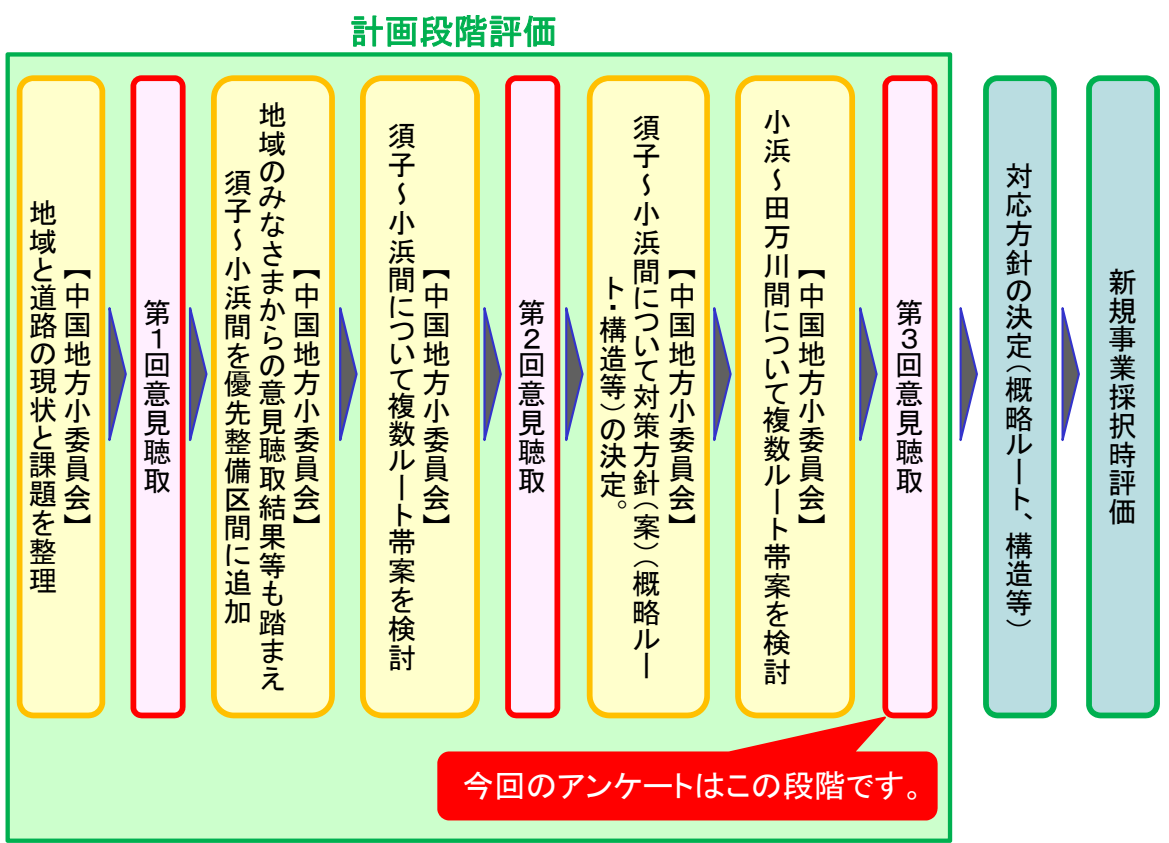
Q2. 対象路線の自動車による主な利用目的を教えてください。
① 通勤 ② 通学 ③ 買い物
④ 仕事 ⑤ 観光・レジャー ⑥ その他()

Q3. 主な目的地を教えてください。
① 益田市 ② 萩市(旧田万川町) ③ 萩市(旧須佐町)
④ 阿武町 ⑤ 萩市(旧萩市) ⑥ 萩市(その他)
⑦ 長門市 ⑧ 浜田市
⑨ その他() 《裏面》の質問へ→

※)本アンケートでお答えいただいた意見および個人情報、他の目的で使用したり、第三者に使用させたりすることは一切いたしません。

住

アンケートの今後の流れ



※本アンケートでお答えいただいた個人情報は、厳重に管理するとともに、お答えいただいたご意見については今後の道路計画を検討する際の貴重なご意見として活用させていただきます。

アンケートのお問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所
担当：調査設計課
☎0855-22-3129



安心で快適な
地域づくりのために
みなさまのご意見
をお待ちしております。

3.3. 第3回意見聴取方法

3) アンケート案 (質問事項)

- 小浜～田万川間の対応方針案の検討にあたり、「重視すること」、「配慮すべき事項」について確認
- 質問事項と合わせて、自由意見や回答者の属性を確認

【質問票】

(回答はがきに記載してください)

提示した小浜～田万川間の対応方針案に対して、みなさまが配慮すべき(重要)と思う事項等についてご意見をいただき、対策案決定の参考にいたします。

質問1 今回、対応方針を3案検討していますが、地域にとって望ましい案を考える際に、何が重要と思いますか。

以下の重視すべき項目①～⑭から特に配慮すべき(重要)と思われる項目について最大3つまで選んで頂き、番号とその理由や内容をお書き下さい。

① 通行止め時の代替路が確保できること。

② 交通の安全性が向上できること。

③ 主要な産業拠点への連達性が向上できること。

④ 観光地間(益田～萩間)の連達性が向上すること。

⑤ 救急医療機関へ早く、確実に搬送できること。

⑥ 大気質や騒音等の生活環境への影響が改善すること。

⑦ 自然環境への影響が小さいこと。

⑧ 移転等が必要な家屋が少ないこと。

⑨ 集落との連絡性に優れること。

⑩ 工事中の交通規制等が少ないこと。

⑪ 建設に要する費用が少ないこと。

⑫ 効果発現までの期間が短いこと。

⑬ 維持管理に要する費用が少ないこと。

⑭ その他(上記で重視すべき項目についてご自由にお書き下さい)

質問2 道路整備をすることによる懸念事項や配慮した方が良いと思う事項(周辺への影響、経済性、拠点等)について意見などありましたら、ご自由にお書き下さい。

質問は以上です。ありがとうございました。

■回答方法 回答は、右記の返信用はがきに記入し、切り取って郵便ポストに投函して下さい

【回答はがき】

(質問票をご覧ください回答してください)

(質問1)

左記の重視すべき項目①～⑬のうち、特に配慮すべき(重要)と思われる項目について、番号とその理由・内容をお書きください。

特に重視すべき項目の番号	特に配慮すべき(重要)と思われる理由・内容

(質問2)

道路整備をすることによる懸念事項や配慮した方が良いと思う事項(周辺への影響、経済性、拠点等)について意見などありましたら、ご自由にお書き下さい。